

# 宗谷国有林の 地域別の森林計画書

(宗谷森林計画区)

計画期間

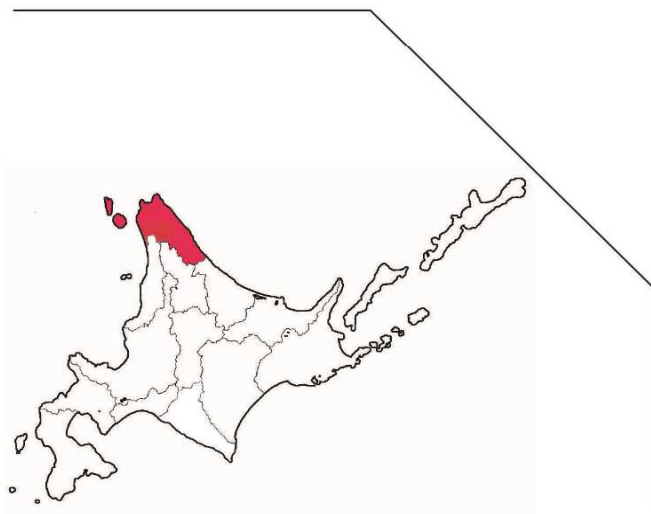
自	令和 3年 4月 1日
至	令和13年 3月31日

樹立年月日：令和 2年12月25日

北海道森林管理局



# 宗谷森林計画区の位置図



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森 林 計 画 区 界	
市 町 村 界	
森 林 管 理 署	



## は し が き

この計画は、森林法第7条の2の規定に基づき、全国森林計画に即して、宗谷森林計画区に係る国有林について、公益的機能別施業森林の区域及び施業方法、並びにその整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的事項等を定めるものです。



## 目 次

I	計画の大綱	
1	森林計画区の概況	1
	(1) 位置	
	(2) 自然的背景	
	(3) 社会経済的背景	
	(4) 森林・林業・木材産業の概況	
2	前計画の実行結果の概要及びその評価	2
	(1) 伐採立木材積	
	(2) 人工造林・天然更新別面積	
	(3) 間伐面積	
	(4) 林道の開設又は拡張の数量	
	(5) 保安林の整備	
	(6) 治山事業	
3	計画樹立に当たっての基本的な考え方	4
II	計画事項	
第1	計画の対象とする森林の区域	6
第2	森林の整備及び保全に関する基本的な事項	
1	森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項	6
	(1) 森林の整備及び保全の目標	
	(2) 森林の整備及び保全の基本方針	
	(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等	
2	その他必要な事項	10
第3	森林の整備に関する事項	
1	森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）	11
	(1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法	
	(2) 立木の標準伐期齢	
	(3) その他必要な事項	
2	造林に関する事項	14
	(1) 人工造林に関する事項	
	(2) 天然更新に関する事項	
	(3) その他必要な事項	

3	間伐及び保育に関する事項	16
	(1) 間伐の標準的な方法	
	(2) 保育の標準的な方法	
	(3) その他必要な事項	
4	公益的機能別施業森林等の整備に関する事項	18
	(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における施業の方法	
	(2) その他必要な事項	
5	林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項	19
	(1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方	
	(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方	
	(3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法	
	(4) その他必要な事項	
6	森林施業の合理化に関する事項	21
	(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	
	(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	
	(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	
	(4) その他必要な事項	
第4	森林の保全に関する事項	
1	森林の土地の保全に関する事項	21
	(1) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	
	(2) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区	
	(3) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法	
	(4) その他必要な事項	
2	保安施設に関する事項	22
	(1) 保安林の整備に関する事項	
	(2) 保安施設地区の指定に関する事項	
	(3) 治山事業の実施に関する事項	
	(4) その他必要な事項	
3	鳥獣害の防止に関する事項	23
	(1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法	
4	森林病虫害の駆除及び予防その他森林の保護に関する事項	23
	(1) 森林病虫害等の被害対策の方針	
	(2) 鳥獣による森林被害対策の方針	
	(3) 林野火災の予防の方針	



(4) その他必要な事項

第5	計分量等	
1	伐採立木材積	24
2	間伐面積	24
3	人工造林及び天然更新別の造林面積	24
4	林道の開設又は拡張に関する計画	24
5	保安林整備及び治山事業に関する計画	25
	(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等	
	(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等	
	(3) 実施すべき治山事業の数量	
第6	その他必要な事項	
1	保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法	25
2	その他必要な事項	28

Ⅲ 別表

別表1	公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業方法	1
別表2	樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区	3
別表3	鳥獣害防止森林区域	4
別表4	開設又は拡張すべき林道の種類別及び箇所別の数量等	5
別表5	治山事業の数量	6
別表6	法令により施業について制限を受けている森林の施業方法	7

(附) 参考資料

1	森林計画区の概況	
	(1) 市町村別土地面積及び森林面積	1
	(2) 地況	1
	(3) 土地利用の状況	3
	(4) 産業別就業者数	3
2	森林の現況	
	(1) 齢級別森林資源表	4
	(2) 制限林普通林別森林資源表	9
	(3) 市町村別森林資源表	10
	(4) 制限林の種類別面積	13
	(5) 樹種別材積表	15

(6) 荒廃地等の面積	-----	15
(7) 森林の被害	-----	15
<b>3 林業の動向</b>		
(1) 森林組合及び生産森林組合の現況	-----	16
(2) 林業事業体等の現況	-----	17
(3) 林業労働力の概況	-----	17
(4) 林業機械化の概況	-----	18
<b>4 前期計画の実行状況</b>		
(1) 間伐立木材積その他の伐採立木材積	-----	19
(2) 間伐面積	-----	19
(3) 人工造林・天然更新別面積	-----	19
(4) 林道の開設及び拡張の数量	-----	19
(5) 保安林の整備及び治山事業に関する計画	-----	20
<b>5 林地の異動状況</b>		
(1) 森林より森林以外への異動	-----	20
(2) 森林以外より森林への異動	-----	20
<b>6 森林資源の推移</b>		
(1) 分期別伐採立木材積等	-----	21
(2) 分期別期首資源表	-----	22



## I 計画の大綱

### 1 森林計画区の概況

#### (1) 位置

北海道の最北に位置し、宗谷総合振興局の区域と重なっている。北見山地から北東に向かって傾斜する宗谷丘陵を境に留萌、上川北部、網走西部の森林計画区にそれぞれ接しており、北部は宗谷海峡を隔ててサハリン（旧樺太）を望み、東部はオホーツク海に、西部は日本海に面し、海上に利尻島、礼文島がある。

#### (2) 自然的背景

##### ア 地勢

山地は、最も高い利尻山（1,721m）を除いて、標高500m以下の低山性丘陵地が主体となっている。

河川は、北見山地を水源とする猿払川、頓別川、徳志別川などが北東に流下しオホーツク海に注いでいる。また、国内有数の渡り鳥の中継地として知られる大沼、クッチャロ湖、サロベツ湿原のほか、多くの湖沼がある。

##### イ 地質及び土壌

地質は、先白亜紀の日高層群を基盤として白亜紀・第三紀が堆積され、西及び北の天塩山地と宗谷丘陵には、一部斑れい岩や花崗岩が貫入し、知駒岳周辺には大きな蛇紋岩帯がある。利尻島は火山岩類、礼文島は白亜紀層や第三紀層のほか火山岩類で構成されるほか、この地域には利尻山を噴出源とする火山灰が堆積しているが、西部の一部で黒色土の母材となっているほかは部分的にわずかに認められる程度である。

土壌は、一般に埴質で緻密な褐色森林土が広く分布し、知駒岳付近の蛇紋岩山地にはポドゾル化土壌の分布が特徴的で、火山岩地の山麓部は多礫層となっている。また、大沼、クッチャロ湖、サロベツ湿原周辺の原野は泥炭土壌及び灰色低地土壌が広がり、その周囲の河川、沢ではグライ土壌となっている。

利尻・礼文両島は、低標高からポドゾル化土壌が分布しているが、森林の多くは褐色森林土となっている。

##### ウ 気候

気候は、離島及び日本海とオホーツク海に面する海洋性気候と、山岳地帯及びこれに展開する河川流域の内陸性気候に大別できる。

海洋性気候の夏は概して涼しく、冬は内陸部に比べ比較的温暖である。

#### (3) 社会経済的背景

##### ア 市町村の構成

1市8町1村から構成され、国有林は全市町村に所在している。

##### イ 人口

約68千人（平成27年国勢調査）で、全道の約1.3%となっている。

## ウ 産業

農業は、広大な1戸当たりの耕地面積を背景に大規模な草地型酪農が展開され、道内有数の酪農地帯となっているが、離島3町では野菜を中心とした自給自足的な農業が営まれている。

水産業は、海域により大きく異なり、主要魚種は、オホーツク海側がホタテ、サケ、毛ガニ、日本海側はウニ、コンブ、ホッケである。

観光は、利尻礼文サロベツ国立公園など雄大な自然に恵まれていることから、利尻・礼文両島を中心に多くの観光客が訪れている。

また、宗谷丘陵をはじめとして、全道でも特に風の強い地域であることから、風力発電施設が数多く建設されている。

## (4) 森林・林業・木材産業の概況

### ア 森林・林業

森林面積は、総土地面積の約70%の326千haで、全道森林面積の約6%を占め、このうち林野庁所管の国有林が169千haとなっている。

高緯度地方の特色ある自然環境を形成しており、利尻礼文サロベツ国立公園等に指定され、レクリエーションの場として利用されているが、絶滅のおそれが高い野生生物の生息・生育地やラムサール条約湿地（クッチャロ湖、サロベツ原野）が所在することから、野生生物の保護に対する要望が高い。

森林蓄積は、全道の5%を占める38,299千m<sup>3</sup>であり、このうち国有林は20,202千m<sup>3</sup>となっている。国有林のha当たり蓄積は120m<sup>3</sup>で、全道平均147m<sup>3</sup>を下回っている。

人工林率は27%であり、国有林は25%と全道平均27%を下回っている。

### イ 木材産業

令和元年度の製材の原木消費量は、全道の約8%を占める13千m<sup>3</sup>となっており、製材出荷量は、全道の8%を占める6千m<sup>3</sup>となっている。また、チップの原料消費量は全道の約0%を占める7百m<sup>3</sup>となっている。

### ウ 林業事業体等の現況

令和元年度末現在の林業事業体は、造林業では14業者、素材生産業では8業者となっている。森林組合は、4組合が組織されている。

## 2 前計画の実行結果の概要及びその評価

伐採については、おおむね計画どおりの実行材積となった。

人工造林については、計画期間の後半に比べ、前半により多くの伐採を実行したことから、実行面積が増加した。天然更新については、対象林分を精査した結果、実行面積が減じた。

間伐については対象箇所状況を精査し、現況を踏まえ実行した結果、おおむね計画通りの実行面積となった。

林道の開設又は拡張の数量については、利用区域内の事業実行の時期等を踏まえ、優先度の高いものから実行した結果、計画面積より減となった。

治山事業は、各箇所の緊急性を勘案のうえ、推進した結果、溪間工及び山腹工は計画面積より減、植栽工及び本数調整伐も計画面積より減となった。

(1) 伐採立木材積

単位 材積：千<sup>3</sup>m

区分	伐採立木材積						
	計画			実行			実行歩合
	主伐	間伐	総数	主伐	間伐	総数	総数
総数	87	207	294	106	209	315	107%
針葉樹	72	178	250	91	183	273	109%
広葉樹	14	29	43	15	27	42	98%

注1) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

2) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分（H28～R2年度）である。

(2) 人工造林・天然更新別面積

単位 面積：ha

総数			人工造林			天然更新		
計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
922	608	66%	318	471	148%	604	137	23%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分（H28～R2年度）である。

(3) 間伐面積

単位 面積：ha

計画	実行	実行歩合
4,079	3,976	97%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分（H28～R2年度）である。

(4) 林道の開設又は拡張の数量

単位 距離：km

区分	開設延長			拡張箇所数		
	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
総数	38	8	21%	16	0	0%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分（H28～R2年度）である。

(5) 保安林の整備

単位 面積：ha

種類	指定			解除		
	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
総数	-	-	-	-	1	-
土砂流出防備	-	-	-	-	0	-
土砂崩壊防備	-	-	-	-	0	-
保健	-	-	-	-	0	-

注1) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

2) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分（H28～R2年度）である。

## (6) 治山事業

主な工種	計画	実行	実行歩合
溪間工(箇所)	43	8	19%
山腹工(箇所)	22	9	41%
植栽工(ha)	87	14	16%
本数調整伐(ha)	379	164	43%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28~R2年度)である。

### 3 計画樹立に当たっての基本的な考え方

森林の有する公益的機能の発揮に対する国民の期待は、国土の保全や水源の涵養、地球温暖化の防止のみならず、生物多様性の保全など、ますます多様で重層的なものとなってきている。

北海道の森林は、国民が期待する公益的機能の発揮に対し、北海道の美しく雄大な景観の形成や、豊かな野生生物の生育・生息環境の確保など、大きな役割を果たしている。

とりわけ、北海道の土地総面積の約39%、森林面積の約55%を占める国有林の果たすべき役割は、大きなものとなっている。

特に生物多様性保全については、森林の整備にあたり、河畔周辺の保全等による森林生態系のネットワークの形成や、樹種や林齢等の異なるさまざまなタイプの森林の分散的な配置など、森林の状態や変化に応じ、多種多様な生物相を安定的、長期的に支える視点が求められている。

北海道の国有林においては、このような森林の有する公益的機能をより一層発揮させるために、人工林の主伐箇所等において、天然力を活かした多様な森林づくりを推進するとともに、民有林と国有林が連携し、周辺民有林も含めた面的な機能発揮や、森林・林業の再生に向けた国有林野の資源、フィールド、人材等の積極的な活用を図っていくこととする。

特に、本森林計画区では、以下のような森林づくり等について取り組んでいくものとする。

- (1) 本計画区の国有林は、地域の水源として、また、基幹産業である農業(酪農)やコンブ等の沿岸資源に依存した水産業の振興に資する観点で重要な役割を担っており、土砂の流出・崩壊等の防止に資する健全な森林づくりが求められている。このため、河川流量を平準化し、渇水や洪水を緩和するとともに、土砂や濁水の流出を防止するなど、森林の有する水源涵養機能及び山地災害防止機能の持続的発揮に向けた森林の整備及び保全を推進する。
- (2) 森林の生物多様性の保全については、森林に対する社会的ニーズや立地条件、森林生態系の生産力や復元力に応じた適切な森林施業を組み合わせるなどにより、全体として森林生態系の種及び遺伝子の保管庫としての機能が最大限に発揮されることに留意しつつ、森林の整備及び保全を推進する。  
国の天然記念物に指定されているクマゲラや国内希少野生動植物種に指定されているクマタカ等の生息環境に配慮した森林施業を推進し、生息環境の保全を図る。

- (3) 海岸沿いの森林を中心として、過去の森林火災等によるササが優占する箇所が現在も多く所在し、森林の再生による住民の生活環境の保全等が求められていることから、防災林の造成や天然更新補助作業等の実施によって、これらササが優占する箇所の森林の再生を図る。
- (4) 道内各地において大型バイオマス発電施設の稼働が進んでいることや、二酸化炭素排出量の削減の観点から、林地未利用材等の木質バイオマスの有効利用を促進する。
- (5) 森林吸収源対策を推進するとともに、森林の健全性を確保する観点から、若・壮齢級の人工林における間伐や、増加する高齢級の人工林における複層林施業等を積極的に推進するとともに、伐採後の着実な更新を図る。
- (6) 計画を効率的に実施し、地域の森林の一体的かつ総合的な整備及び保全を推進するため、民有林・国有林間で密接な連絡調整を図るとともに、森林整備推進協定の締結、森林共同施業団地の設定等の取組を推進する。



## II 計画事項

### 第1 計画の対象とする森林の区域

市町村面積

単位 面積：ha

区分	面積	備考
総数	168,553.55	
市町別内訳	稚内市	19,490.30
	猿払村	19,694.43
	浜頓別町	15,797.70
	中頓別町	24,405.71
	枝幸町	47,228.13
	豊富町	14,910.18
	礼文町	6,445.66
	利尻町	5,528.78
	利尻富士町	7,013.12
	幌延町	8,039.54

- 注1) 計画の対象とする森林の区域は、森林計画図において表示する区域内の林野庁所管の国有林及び公有林野等官行造林地とする。なお、本計画区内には公有林野等官行造林地は存在しない。
- 2) 森林計画図は、北海道森林管理局計画課、宗谷森林管理署に備え置く。

### 第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

#### 1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

##### (1) 森林の整備及び保全の目標

森林の有する各機能を高度に発揮させる上で望ましい森林の姿は、次のとおりである。

##### ア 水源涵養機能

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林。

##### イ 山地災害防止機能／土壌保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林。

##### ウ 快適環境形成機能

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林。

##### エ 保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林。

#### オ 文化機能

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されているなど、精神的・文化的・知的向上等を促す場としての森林。

#### カ 生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林等、その土地固有の生物群集を構成する森林。

#### キ 木材等生産機能

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林。

### (2) 森林の整備及び保全の基本方針

寒冷な気候下にある、本計画区の国有林においては、自然条件等に応じ、天然力を活用した施業を主体として育成複層林へと誘導・維持する施業を積極的に推進するとともに、原生的な森林の保存に努めることとする。また、育成単層林については、適切な間伐等の実施や的確な更新の確保により、健全な森林の育成に努めることとする。

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化や急速な少子高齢化と人口減少等の社会的情勢の変化も考慮しつつ、重視すべき機能に応じた適正な森林施業の面的な実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。また、これらを踏まえ森林の状況を適確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や、リモートセンシング及び森林GISの効果的な活用を図ることとする。

具体的には、森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する各機能の充実と機能間の調整を図り、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、森林の構成、森林の有する機能、林道の整備状況、社会的要請等を総合的に勘案のうえ、育成単層林における保育・間伐の積極的な推進、針広混交林化、広葉樹林化を含め、人為と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む育成複層林の計画的な整備、天然生林の適確な管理・保全等に加え、山地災害等の防止対策や病害虫及び野生鳥獣等による森林被害等の防止対策の推進等により、重視すべき機能に応じた多様な森林資源の整備及び保全を図ることとする。

また、森林の管理経営に欠くことのできない施設である林道等の整備に当たっては、周囲の環境との調和を図ることに加え、コストの縮減に努め、森林資源の整備の目標及び公道、民有林林道等の配置状況等を考慮し、農山村地域の振興にも資する整備に努めるとともに、既設の林道等については、利用状況、今後の森林施業の展開等を考慮しながら、改良及び適切な維持管理を図ることとする。

さらに、森林の水源涵養機能、山地災害防止機能等の諸機能の高度発揮を図るため、治山事業の計画的な実施に努めるとともに、保安林の適正な整備や保安林制度の適切な運用を図ることとする。その中で、流域保全の観点から、関係機関が連携した取組等を通じて、山地災害の減災に向けた事業の実施を図る。その際、環境との調和を図ることに加え、コストの縮減に努める。

なお、森林の整備及び保全の推進に当たっては、森林が多種多様な生物の生育・生息地であることや、森林に対しては国民の多様なニーズがあることに十分配慮するとともに、森林

は二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫として重要な役割を果たしていることから、間伐等の森林整備の着実な実施や保安林等の適切な管理・保全等により、吸収源・貯蔵庫としての機能を十分に発揮できるよう努めるものとする。

森林の有する各機能を踏まえ、それぞれの機能の維持増進を図るための森林の整備及び保全の基本方針は次のとおりとする。

#### ア 水源涵養機能

ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林、地域の用水源として重要なため池、湧水地、溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、伐採に伴って発生する裸地については縮小及び分散を図ることとする。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、奥地水源林等の人工林における針広混交の育成複層林化など天然力も活用した施業を推進することとする。

ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進することを基本とする。

#### イ 山地災害防止機能／土壤保全機能

山地災害の発生により、人命・人家等施設への被害のおそれがある森林であって、土砂の流出、土砂の崩壊の防備、その他山地災害の防備のための森林は、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進することとする。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。

集落等に近接する山地災害の発生の危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設の設置を推進することを基本とする。

#### ウ 快適環境形成機能

国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林、森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進することとする。

また、快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進することとする。

#### エ 保健・レクリエーション機能

観光的に魅力ある高原、溪谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリ

エーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、国民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進することとする。

また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

#### オ 文化機能

史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとする。

また、風致の保存等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

#### カ 生物多様性保全機能

すべての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与している。

このことを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方にに基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件等に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指すものとする。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全することとする。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮した適切な保全を推進することとする。

#### キ 木材等生産機能

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備を推進することとする。

具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進することを基本とする。この場合、施業の集団化や機械化を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。

### (3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

単位 面積:ha 蓄積:m<sup>3</sup>/ha

区分		現況	計画期末
面積	育成単層林	40,615	38,869
	育成複層林	28,989	30,763
	天然生林	85,828	85,800
森林蓄積(m <sup>3</sup> /ha)		141	152

注) 育成単層林： 森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。

育成複層林： 森林を構成する林木を帯状若しくは群状又は単木で伐採し、一定の範囲又は同一空間において複数の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。

天然生林： 主として天然力を活用することにより成立させ維持される森林。

## 2 その他必要な事項

### (1) 水源涵養機能の持続的発揮に向けた森林整備

河川の上流域に位置する国有林は、地域の水源として、また、基幹産業である農業及び水産業の振興等に資する観点から、特に水源涵養機能の発揮への期待が高い。

このため、将来の森林の姿を見据えた面的な広がりでの森林を取り扱うことに留意して、①将来とも育成単層林として維持していく林分については、伐採に伴う裸地化による影響を軽減するため、自然条件に応じて皆伐面積の縮小・分散や、間伐の繰り返しによる伐期の長期化、植栽による確実な更新を図り、②将来、育成複層林に誘導していく林分については、複層林、針広混交林等への誘導に向けた下層の光環境の確保、下層植生等の導入・育成に配慮した施業等を行っていくものとし、流域全体で水源涵養機能が持続的に発揮されることを目指すものとする。

特に、それぞれの施業目的に応じた間伐を重点的に行い、地球温暖化防止にも貢献していくとともに、路網を基幹として施業の集約化等を推進し、森林資源の有効利用を進めていくものとする。また、地域との連携・協働による水源林整備も積極的に進める。

なお、取水施設の上流等の特定水源に近接する箇所については、特に留意し、水源に影響を及ぼすおそれがある場合は施業を見合わせるとともに、溪流沿いについては、溪流への土砂の流出・崩壊を抑えるため、おおむね50m以上（水辺からおおむね片側25m以上）の保護樹帯を設置する。

### (2) クマゲラ、クマタカ・オオタカ及びイトウ等生息森林の取扱い

#### ア クマゲラ

北海道においては、その全域にわたり国の天然記念物に指定されているクマゲラが生息しているが、こうした大型のキツツキ類は、営巣や採餌のために樹木に開けた穴を多くの樹洞性動物が利用するなど、生態系のキーストーン種であるとされていることから、営巣木の保護区域等を設定するなど、その生息環境の保全に努める。

#### イ クマタカ・オオタカ

猛禽類の多くは陸上生態系において食物連鎖の頂点に位置する肉食動物として注目されており、このうちクマタカは我が国の森林生態系を代表する猛禽類であるが、将来における種の存続が危惧される状況になっていること、また、オオタカは平成29年9月に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく「国内希少野生動植物種」の指定が解除になったものの、比較的深山帯、平地林にも多く生息し、森林施業と密接に関わっていることから、引き続き、その生息環境の保全に努める。

#### ウ イトウ

サケ科イトウ属に分類される我が国最大級の淡水魚である。北海道が国内の自然繁殖地で、限られた河川でしか繁殖していない。このため、イトウが多く生息している保護河川に沿って保護区域と緩衝区域を設定し、イトウの生態や生息環境に配慮した森林施業に努める。

#### エ その他

このほかの希少野生生物（「絶滅のおそれのある野生生物の種の保存に関する法律」に基づき定められている国内希少野生動植物種や環境省や北海道のレッドデータブックに掲載

載されている種など)についても、その生息・生育の把握に努め、確認された場合や情報がある場合には、学識経験者から助言を得るなど、その保護に配慮した施業に努めるものとする。

### (3) レブンアツモリソウの保護管理

国内希少野生動植物種であるレブンアツモリソウについては、地元自治体や関係機関等と連携して、巡視や生育環境の保護管理等を推進する。

### (4) サロベツ湿原周辺の自然再生

利尻礼文サロベツ国立公園に位置するサロベツ湿原の乾燥化及び稚咲内海岸砂丘林内の湖沼の水位の低下等に対する対策を検討する。また、海岸砂丘林を活用し、小学生を対象とした森林環境教育等を実施する。

### (5) ササが優占する箇所での森林の再生

海岸沿いの森林を中心として過去の森林火災等により、現在もササが生い茂った状態となっている箇所について、住民の生活環境の保全等の森林に対する多様な要請に応えていくため、防災林の造成や天然更新補助作業等を実施することによって、これらササが優占する箇所の森林の再生を図る。

## 第3 森林の整備に関する事項

### 1 森林の立木竹の伐採に関する事項(間伐に関する事項を除く。)

森林施業を実施するに当たっては、第2の1「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」によるほか、次に掲げる基準によるものとする。

なお、保安林及び保安施設地区内の森林並びに法令により立木の伐採につき制限のある森林(森林法施行規則(昭和26年農林省令第54号)第10条に規定する森林をいう。)については、保全対象又は受益対象を同じくする森林ごとに制限の目的の達成に必要な施業を行うこととする。

また、森林の生物多様性の保全の観点から、施業の実施に当たっては、野生生物の営巣、餌場、隠れ場として重要な空洞木・枯損木や、目的樹種以外の樹種であっても目的樹種の成長を妨げないものについては、保残に努めることとする。

#### (1) 立木伐採(主伐)の標準的な方法

立木の伐採のうち主伐については、更新を伴う伐採により行うものとする。

主伐に当たっては、森林の有する公益的機能の発揮と森林生産力の維持増進に配慮して行うこととし、伐採跡地が連続することがないように、伐採跡地間には、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保することとする。

伐採の対象とする立木については、標準伐期齢以上を目安として選定することとする。

また、伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定め、その方法を勘案して伐採を行うこととする。特に、伐採後の更新を天然更新による場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実等に配慮することとする。

なお、自然条件が劣悪なため、更新を確保するため伐採の方法を特定する必要がある森林における伐採の方法については、択伐等適確な更新に配慮したものとする。

さらに、林地の保全、雪崩及び落石等の防止、寒風害等の各種被害の防止、風致の維持並



ウ 伐採、素材の集積場等に当たっては、枝条、素材等が流出し、下流の人家・公共施設、農地等に被害を及ぼすことのないよう、必要な措置を講ずるとともに、土砂の流出が生じないよう十分配慮する。

## エ クマゲラ、クマタカ・オオタカ及びイトウ等生息森林の取扱い

### (ア) クマゲラ

営巣木が確認された場合は、営巣木を中心に、おおむね半径50m以内を「営巣木保護区域」、おおむね半径500m以内を「緩衝区域」として設定する。

営巣木保護区域においては、営巣木の伐採は行わない。営巣木周辺では弱度の択伐、間伐以外の伐採は行わないとともに、産卵・抱卵・育雛期間（4～6月頃）は立ち入りを控え、騒音の発生を防止する。

緩衝区域においては、伐採は択伐及び間伐を原則とし、機能区分に基づき皆伐が必要な場合は面積5ha以下として、更新後の平均樹高が10mに達するまでは隣接した伐採区域は設定しない。

（具体的な取扱いは、「クマゲラ生息森林の取扱い方針の制定について」（平成18年6月29日付け18北計第27号）による。）

### (イ) クマタカ・オオタカ

営巣木が確認された場合は、クマタカについては営巣木から半径500m程度、オオタカについては半径250m程度の「営巣中心域」を設定する。また、クマタカ・オオタカともに、営巣木から半径2km程度の「高利用域」を設定する。

営巣木から半径50m程度は、原則として伐採は行わない。

営巣中心域では、営巣の確認のため以外は入林せず、間伐等の実施は非営巣期（クマタカ：9～1月、オオタカ：8～2月）に行い、皆伐が必要な場合は1ha以下として、更新後の平均樹高が10mに達するまでは隣接した伐採区域は設定しない。

採餌場の確保に配慮するため、高利用域内の人工林において皆伐を行う場合には、面積を5ha以下にするとともに、分散配置に努める。

（具体的な取扱いは、「クマタカ・オオタカ生息森林の取扱い方針について」（平成30年1月23日付け29北計第76号）による。）

### (ウ) イトウ

イトウの保護の観点からイトウの生態に配慮した森林施業等を行うこととし、指定河川の区間に沿った国有林内に、保護区域と緩衝区域を設定する。

このうち、保護区域内の林分においては、イトウの産卵・孵化期間の伐採等は行わないこととし、また、これ以外の期間においても、原則として伐採等は行わないものとする。

また、緩衝区域においては、産卵期間（おおむね4月～5月）における伐採等は行わないものとし、この期間以外の期間に伐採等を行う場合、河川への土砂流入による濁水発生防止の措置に努めるものとする。

（具体的な取扱いは、「イトウ棲息河川上流部における森林施業等の留意事項について」（平成15年8月13日付け15北森保第35号）による。）

### (エ) その他

このほかの希少野生生物（「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき指定された国内希少野生動植物種や環境省及び北海道のレッドデータブックに



掲載された種など)についても、その生育・生息の把握に努め、確認された場合や情報がある場合には、学識経験者から助言を得るなど、その保護に配慮した施業に努めるものとする。

## 2 造林に関する事項

造林については、裸地状態を早期に解消して公益的機能の維持を図るため、更新すべき期間内に造林を行うものとし、その方法については、気候、地形、土壌等の自然条件に応じて、人工造林又は天然更新によるものとする。特に、伐採後に適確な更新が図られていない伐採跡地については、それぞれの森林の状況に応じた方法により早急な更新を図ることとする。

なお、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林における造林の方法は、人工造林によることとする。

### (1) 人工造林に関する事項

人工造林については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林や公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林において行う。

#### ア 人工造林の対象樹種

適地適木を基本として、気象、地形、土壌等の自然条件、既往の成林状況及び地域における造林樹種の需給動向等を勘案し選定するものとする。

また、育成複層林へ導くための施業を行う林分については、自然条件等に加え、上木の生育状況も勘案して樹種を選定する。

#### イ 人工造林の標準的な方法

##### (ア) 人工造林の植栽本数

主要な樹種の植栽本数は、既往の施業体系及び植栽本数を勘案して次表を目安とするが、多様な森林への誘導及び造林コストの低減等の観点から、造林対象地の天然稚幼樹の発生状況及び有用天然木の配置状況等を勘案しつつ、法令等の制限を遵守する中で、可能な限り低密度とする。

樹 種	基準本数(本数/ha)
トドマツ	3, 000
アカエゾマツ、エゾマツ	3, 000
カラマツ、グイマツ	2, 500
広葉樹	4, 000
クロマツ(海岸林)	10, 000
その他針葉樹	3, 000

注) 複層林施業については、上記の本数を目安としつつ、上木の樹冠を避けた範囲を植栽区域とする。

##### (イ) その他人工造林の標準的な方法

人工造林は、気象及び気象害の発生状況その他の自然条件及び既往の造林地の成績等

を勘案するものとする。また、天然力を積極的に活用するとともに、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入も推進しつつ、現地の実態に即して、早期かつ確実な成林が期待できるよう行う。

地拵の方法は、植栽樹種、植栽方法、下層植生、保残した有用天然木の配置状況に応じ、大型機械の有効活用等も検討の上、現地に適合した方法を採用するものとする。

植栽時期は、極力乾燥期を避けるなど現地状況を考慮して行う。また、健全な苗木の使用、植付方法により、活着率の向上と十分な成長が図られるよう行う。

諸種の原因により枯損が発生し、将来の成林に支障がある場合は、その枯損原因を究明の上、速やかに補植を行う。

なお、人工下種は、自然条件等により天然更新が期待できない箇所、人工下種により広葉樹資源の造成が可能な場合に行う。

#### ウ 伐採跡地の人工造林をすべき期間

伐採跡地については、林地の荒廃を防止し、裸地状態を早急に解消するため、人工造林によるものについては、原則として2年以内に更新を図る。

### (2) 天然更新に関する事項

天然更新については、気候、地形、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林において行う。

#### ア 天然更新の対象樹種

適地適木を基本とし、自然条件、森林を構成する樹種及び下層植生の状況等からみて、植込み、地表処理等の更新補助作業を行うことにより確実な更新が期待できる樹種とする。なお、対象地内の有用天然木は積極的に育成する。

#### イ 天然更新の標準的な方法

天然更新の方法の選択に当たっては、後継樹の本数及び配置状況等現地の実態に即して行うが、確実な更新が図られるようこれらを適宜組み合わせることとする。

##### (ア) 刈出し

ササなどの下層植生により天然稚幼樹の生育が阻害されている箇所について、更新を確保するため刈払い等を実施する。

##### (イ) 地表処理

ササや粗腐植の堆積等により天然下種更新が阻害されている箇所について、大型機械によるかき起こし等を実施する。

なお、地表処理によるものについては、処理を実施した年の翌年から5年以内に更新状況の確認を行い、更新が完了していないと判断される場合には、再度、更新補助作業を行うなど、確実に更新を図る。

##### (ウ) 植込み及びまき付け等

天然稚幼樹の生育状況や天然下種更新の可能性を考慮し、必要な場合は、植え込み、まき付けを行う。

なお、広葉樹の更新が期待できる箇所は、ミズナラ等のまき付けを行う。  
また、ぼう芽力の強い樹種によるぼう芽更新なども考慮する。

### (3) その他必要な事項

#### ア 防災的見地からの施業

林地崩壊のおそれがある地域や急傾斜地等で地拵を行う場合は、刈払いの方向や枝条等の置き場に十分留意するものとする。

## 3 間伐及び保育に関する事項

### (1) 間伐の標準的な方法

間伐については、林冠がうっ閉（隣り合わせた樹木の葉が互いに接して葉の層が林地を覆ったようになること）し立木間の競争が生じ始めた森林において、主に目的樹種の一部を伐採することにより、伐採後、一定の期間内に林冠がうっ閉するようにする。

実施に当たっては、森林資源の質的向上を図るとともに、適度な下層植生を有する適正な林分構造が維持されるよう、適切な伐採率により繰り返し行うこととする。特に、高齢級の森林における間伐に当たっては、立木の成長力に留意することとする。

なお、森林の状況に応じて、高性能林業機械を活用するなど効率的な施業の実施を図るものとする。

主要な樹種の間伐の時期、間伐方法、間伐率の目安は次のとおりとする。

樹種	間伐の時期（林齢）			間伐方法	間伐率
	初回	2回	3回		
トドマツ	7 齢級 (31～35年)	9 齢級 (41～45年)	11 齢級 (51～55年)	初回、2回目は原則列状間伐とし、3回目以降は単木・列状のいずれか（併用も含む）を選択。	35% を上限とする。
アカエゾマツ、エゾマツ	8 齢級 (36～40年)	11 齢級 (51～55年)	14 齢級 (66～70年)		
カラマツ、グイマツ	4 齢級 (16～20年)	6 齢級 (26～30年)	8 齢級 (36～40年)		
その他針葉樹	6 齢級 (26～30年)	8 齢級 (36～40年)	10 齢級 (46～50年)		
広葉樹	6 齢級 (26～30年)	9 齢級 (41～45年)	—		

注) 低密度植栽を行った場合や気象害などにより林分の閉鎖時期が遅れた場合には、間伐の時期を遅らせる等、柔軟に対応する。

### (2) 保育の標準的な方法

#### ア 保育の種類

下刈、つる切、除伐、鳥獣害防止対策等とし、目的樹種と周辺植生相互の生育状況に応じ、林分の健全性の維持と質的向上のために行う。

実行に当たっては、目的樹種の生育状況等現地の実態に即した効果的な時期、回数、方法等を十分検討のうえ行う。

イ 主要な樹種の保育の時期等の目安は、次のとおりである。

作業種別	樹種	保育作業の年次別計画																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
下刈	カラマツ	○	◎	○	○													
	トドマツ																	
	エゾマツ	○	◎	◎	○	○	○	○	○									
	アカエゾマツ																	
つる切・除伐	カラマツ							←○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	
	トドマツ																	
	エゾマツ									←○	—	—	—	○	—	—	—	
	アカエゾマツ																	

- 注1) 春植を基準としているので、秋植は植付年度の翌年を1年目と読み替える。
- 2) 下刈の○は1回刈、◎は2回刈を示す。2回刈については、必要性を勘案のうえ画一的な実施を避けること。トドマツ等の下刈で、8年目については、必要な箇所に応用する。
- 3) つる切、除伐の←○—○→は標準年次と範囲を示している。
- 4) 地拵でササ等の根茎を除去した場合等においては、現地の状況に応じて下刈回数の削減に取り組む。

## ウ 保育の作業方法

### (ア) 下刈

下刈については、目的樹種の成長を阻害する草本植物等を除去し、目的樹種の健全な育成を図るために行うものとする。なお、目的樹種には、植栽木のみならず、現地の状況に応じ、高木性の天然更新木も含めるものとする（イ）においても同様）。

下刈の終了時点の目安は、樹種、植生の種類により異なるが、大部分の植栽木が植生高を脱し、又は同程度となり、生育に支障がなくなった時期とする。

### (イ) つる切

つる性植物の繁茂の状況により、目的樹種の成長を阻害するおそれがある場合、必要に応じて実施することとし、かん木の発生状況等を勘案し、除伐が必要な箇所については、原則として除伐と併行させ効率的に行うこととする。

### (ウ) 除伐

除伐については、下刈の終了後、林冠がうっ閉する前の森林において、目的樹種の成長を阻害する樹木等を除去し、目的樹種の健全な成長を図るため、森林の状況に応じて適時適切に行うこととする。

また、目的外樹種であっても、その生育状況や将来の利用価値を勘案し、公益的機能の発揮及び利用上有用なものは、保残し育成することとする。

なお、つる性植物の繁茂状況を勘案し、極力つる切と併行させ効率的に実施する。

### (エ) 除伐Ⅱ類

目的樹種の本数密度が現に過密となっている林分、又は第1回目の間伐までに調整を行わないと過密となることが予想される林分を対象に、目的樹種間の競争緩和を目的に

実施する。

伐採木は、成長不良木、形質不良木等を対象とする。

(オ) 鳥獣害防止対策

鳥獣害防止対策については、野生鳥獣による樹木等への被害が見込まれる森林において、目的樹種の成長を阻害する野生鳥獣を防除するため、施業と一体的な対策を行う。

(3) その他必要な事項

ア 森林の有する公益的機能を高度に発揮させつつ資源の有効活用を進める観点から、人工林における高齢級間伐や利用面をも重視した間伐、人工林等における複層状態の林分の上層木の間伐等を積極的に推進する。このため、できる限り簡易で壊れにくい森林作業道等による路網整備を進めるとともに、ハーベスタ等高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムによる間伐の普及を推進する。

イ 森林吸収源対策を推進するとともに森林の健全性を確保する観点から、人工林における間伐等を推進する。

ウ 林地崩壊のおそれがある地域や急傾斜地等については、間伐及び保育の実施により下層植生の繁茂や樹根の生育を促し表土の安定を図るとともに、伐倒木等が河川に流出しないよう配慮する。

4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における森林施業の方法

公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業方法については別表1のとおり定める。

ア 公益的機能別施業森林の区域

(ア) 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

水源涵養機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域にかかる地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせて定めることとする。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等についてはこの限りではない。

(イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

① 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

山地災害防止機能・土壌保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域にかかる地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定めることとする。

ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等についてはこの限りではない。

② 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域  
生活環境保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、  
地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置につ  
いてできるだけまとまりをもたせて定めることとする。

③ 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域  
保健・レクリエーション機能又は文化機能の高度発揮が求められている森林につ  
いて、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保  
の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせて定めることとする。た  
だし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有するレクリエーションの  
森等についてはこの限りではない。

#### イ 公益的機能別施業森林区域内における施業の方法

##### (ア) 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内においては、伐期の延長とともに伐採面積の縮小・分散を図ることを基本  
とし、下層植生の維持（育成複層林にあつては、下層木の適確な生育）を図りつつ、根  
系の発達を確保するとともに、対象森林における自然条件及び社会的条件に応じて長伐  
期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の方法による複層林施業を推進する。

##### (イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文 化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内においては、それぞれの区域の機能に応じ、森林の構成を維持し、樹種の  
多様性を増進することを基本として、長伐期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の  
方法による複層林施業など、良好な自然環境の保全や快適な利用のための景観の維持・  
形成を目的とした施業を推進する。

#### (2) その他必要な事項

すべての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していること  
から、公益的機能別施業森林の区域の別を問わず、一定の広がりにおいて、その土地固有の  
自然条件等に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されてい  
ることを目指すものとする。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林等については、その生  
態系の維持保存に特に配慮した適切な施業に努める。

#### 5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

##### (1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道等路網の開設については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じ  
て、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出や多様な森林への誘導等に必要な森林施業を効果  
的かつ効率的に実施するため、一般車両の走行を想定する「林道」、主として森林施業用の  
車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材等の作業を行う林業機械の走行を想定す  
る「森林作業道」からなる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業シ  
ステムに対応したものとし、林道、林業専用道及び森林作業道を適切に組み合わせることで開設す  
ることとする。

また、林道等の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じ林業専用道を導入するなど、丈夫で簡易な規格・構造を柔軟に選択するとともに、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとする。

さらに、森林共同施業団地においては民有林林道等との連結など、効率的な路網の整備に配慮することとする。

○ 基幹路網の現状

単位 延長：km

区分	路線数	延長
基幹路網	242	775
うち林業専用道	7	25

- (2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方  
高性能林業機械を含む機械作業システムの導入を促進するとともに、効率的な森林施業に資するため、林道、林業専用道及び森林作業道が有機的に連結するよう下表に示す路網密度を基準に路網を整備する。

○ 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準

単位：m/ha

区分	作業システム	路網密度	
			基幹路網
緩傾斜地(0°～15°)	車両系作業システム	100以上	35以上
中傾斜地(15°～30°)	車両系作業システム	75以上	25以上
	架線系作業システム	25以上	25以上
急傾斜地(30°～35°)	車両系作業システム	60以上	15以上
	架線系作業システム	15以上	15以上
急峻地(35°～)	架線系作業システム	5以上	5以上

- (3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法該当なし。

指定の基準

制限林以外の森林であって、地形、地質、土壌等の関係から判断して搬出方法を特定しなければ土砂の流出又は崩壊等を引き起こすおそれがあり、森林の更新又は土地の保全に支障が生ずる林分とする。

(4) その他必要な事項

ア 林道の開設に当たっては、林道規程に基づく規格構造を遵守するとともに、土砂の流出を抑制するよう必要に応じて土留工等の施設を設置する。また、林道通行に対する安全確保のために必要な標識等の交通安全施設の整備に努める。

イ 林道工事におけるクマゲラ、クマタカ・オオタカ及びイトウ等生息森林の取扱い  
林道工事の実施に当たっては、1の(3)のエにおける森林施業と同様の取扱いとする。

## 6 森林施業の合理化に関する事項

### (1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

林業事業体の育成を図るため、民有林及び関係機関との連携を図りつつ、事業の安定的な発注、経営の安定強化のための指導、機械化の促進や労働安全衛生の対策等の指導を図る。これらを通じて、優れた林業労働者の養成及び確保に資するものとする。

### (2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針

森林整備や木材生産の効率化を図るため、チェーンソーとトラクタによる従来型の作業システムに替わる高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムを推進する。

### (3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針

流域森林・林業活性化協議会等への積極的な参加を通じ、産地銘柄の形成、道産材の需要・販路の拡大等に資するよう関係者へのPR及び働きかけに努める。

### (4) その他必要な事項

路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムによる搬出間伐の実施、コンテナ苗植栽や伐採と造林の一貫作業システムの導入など造林・保育の低コスト化、森林バイオマスの有効活用、国有林の有するフィールド・技術力を活用したフォレスター等の人材育成及び林業技術の開発・普及に率先して取り組むほか、地方公共団体等との間の森林整備等に関する協定の締結や森林共同施業団地の設定等の取組の推進による民有林との連携の強化により、流域における林業の成長産業化の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たしていくこととする。

また、民有林において導入された森林経営管理制度に関し、担い手となる市町村への森林技術情報の提供等の支援を行うとともに、対象森林の経営管理の再委託先となる意欲と能力のある林業経営者の育成に取り組む。なお、国有林野事業に係る伐採等を他に委託して実施する場合には、意欲と能力のある林業経営者に委託するように配慮する。

## 第4 森林の保全に関する事項

### 1 森林の土地の保全に関する事項

#### (1) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項

ア 土地の形質の変更に当たっては、目的に応じて、その規模、態様等について、実施地区及び周辺の状態、地形、地質等を十分勘案して定めることとする。

特に、森林作業道等を設置する際は、配置や密度に十分留意し、土砂の流出や崩壊、水質汚濁の防止に努める。また、溪流沿いの森林作業道等の設置は、極力避けるものとする。

イ 土砂の切取、盛土を行う場合、法面については風化、浸食が生じないように法面緑化工、土留工、排水工などを必要に応じて施工することとする。

ウ その他、土地の形質の変更に当たっては、その態様に依りて土砂の流出、崩壊などの防止に必要な施設を設けるなど、適切な保全上の措置を講ずることとする。

#### (2) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区 別表2に示すとおり。



- (3) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要のある森林及びその搬出方法該当なし。

指定の基準

制限林以外の森林であって、地形、地質、土壌等の自然条件から判断して搬出方法を特定しなければ、土砂の流出又は崩壊を引き起こすおそれがあり、林地の保全に支障を及ぼす林分とする。

- (4) その他必要な事項

ア 防災的見地からの施業

林地崩壊のおそれがある地域や急傾斜地等については、樹根による土壌緊縛力を強化するため、育成複層林へ導くための施業等を推進することとする。

2 保安施設に関する事項

- (1) 保安林の整備に関する事項

保安林については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、自然条件、社会的要請及び保安林の配備状況等を踏まえ、水源の涵養、災害の防備、保健・風致の保存等の目的を達成するため保安林として指定する必要がある森林について、水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、保健保安林等の指定に重点を置いて保安林の配備を計画的に推進する。

- (2) 保安施設地区の指定に関する事項

保安施設地区については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、自然条件、社会的要請及び保安林の配備状況等を踏まえ、水源の涵養、災害の防備等の目的を達成するため森林の造成事業又は森林の造成もしくは維持に必要な事業を行う必要がある森林又は土地について、指定する。

- (3) 治山事業の実施に関する事項

治山事業については、国民の安全・安心の確保を図る観点から第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化を図るため、事前防災・減災の考え方に立ち、緊急かつ計画的な実施を必要とする荒廃地等を対象として、植栽、本数調整伐等の保安林の整備及び溪間工、山腹工等の治山施設の整備を計画的に推進する。

また、近年、頻発する集中豪雨や地震等による大規模災害の発生のおそれが高まっており、とりわけ山腹崩壊等に伴う流木災害が顕在化していることを踏まえ、総合的な流木対策を推進する。

- (4) その他必要な事項

ア 治山工事におけるクマゲラ、クマタカ・オオタカ及びイトウ等生息森林の取扱い

治山工事の実施に当たっては、第3の1の(3)のエにおける森林施業と同様の取扱いとする。

### 3 鳥獣害の防止に関する事項

#### (1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法

##### ア 区域の設定

対象鳥獣に定められたエゾシカの鳥獣害防止森林区域については、別表3のとおり定める。

##### イ エゾシカ被害の防止の方法

森林の確実な更新、造林木の育成及び農林業被害の防止を目的として、以下の対策を行う。

(ア) 簡易影響調査や自動撮影カメラの設置等のモニタリングにより生息状況の把握や被害の早期発見に努めるとともに、試験研究機関等との連携及び学識者の意見を踏まえつつ、発生原因の究明及び早期防除に努め、エゾシカ捕獲事業等にも積極的に取り組む。

(イ) 北海道が策定する「北海道エゾシカ管理計画」に基づき個体数調整に協力するとともに、市町村が策定する被害防止対策及びその協議会への参画等を通じて、関係機関と連携を図る。

(ウ) 狩猟期間内における各種事業と狩猟との調整を計画的に図り、狩猟における安全対策の徹底について啓発活動を図る中で、効果的な被害の軽減に向けて取り組む。

### 4 森林病虫害の駆除及び予防その他森林の保護に関する事項

#### (1) 森林病虫害等の被害対策の方針

森林病虫害等による被害の防止対策の推進等については、被害の早期発見に努めるとともに、試験研究機関等と連携し、発生原因の究明及び早期防除に努める。

#### (2) 鳥獣による森林被害対策の方針

3(1)アにおける対象鳥獣以外の鳥獣及び鳥獣害防止森林区域外における対象鳥獣による森林被害について、地域の森林資源の構成、被害の動向を踏まえ、必要に応じて、3(1)イに準じた鳥獣害防止対策を推進する。

#### (3) 林野火災の予防の方針

山火事は、都市近郊林、自然公園等、利用者の多い地域に発生していることから、森林巡視等による適切な森林管理を行う。

森林の巡視に当たっては、国有林の中で、森林レクリエーションのための利用者が特に多く、山火事等の森林被害が多発するおそれのある地域を重点として、現地の実態に即し適切に実施する。また、春先の乾燥時期には巡視を強化するとともに、保護標識等を設置して一般入林者に対する普及啓発を図る。

#### (4) その他必要な事項

レクリエーション等を目的とした森林の保健・文化・教育的利用をはじめとして、森林の有する多面的な機能の発揮に対する期待が高まっており、森林の適正な保護と管理が重要となってきている。国有林の中で、利用者が多く見込まれる地域にあっては、現地の実態に即し森林の巡視を適切に実施するとともに、森林の産物の盗採等の森林法違反行為及び廃棄物

等の不法投棄の未然防止並びに森林被害の早期発見等に努める。

また、入り込みが集中し、植生が荒廃するおそれの高い地域では、植生保全のための巡視や一般入林者に対するマナー啓発などの活動を実施する。植生荒廃が確認された森林については、植生の復元や標識、ロープ、柵の設置等による立入防止対策、裸地化防止措置等を行うものとする。

クマゲラやクマタカ・オオタカが生息する森林については、林道や歩道からおおむね50m以内の範囲に営巣木がある場合には、必要に応じて、営巣木の箇所の特定に結びつかないように留意して、入林の抑制等を行う。

森林の保護及び管理に当たっては、市町村、森林組合等の関係機関及び地域住民の一層の協力のもとに、効率的・合理的に推進する。

## 第5 計画量等

### 1 伐採立木材積

単位 材積：千 $m^3$

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総数	針葉樹	広葉樹	総数	針葉樹	広葉樹	総数	針葉樹	広葉樹
総数	695	560	135	178	144	35	516	416	101
うち前半5年分	356	291	65	96	78	18	259	212	47

注) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

### 2 間伐面積

単位 面積：ha

区 分	間伐面積
総数	11,131
うち前半5年分	6,127

### 3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位 面積：ha

区 分	人工造林	天然更新
総数	709	205
うち前半5年分	353	71

### 4 林道の開設及び拡張に関する計画

別表4に示すとおり。

5 保安林整備及び治山事業に関する計画

(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

ア 保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位 面積：ha

保安林の種類	面積	うち前半5年分	備考
保安林総数（実面積）	151,671	151,671	
水源涵養のための保安林	95,521	95,521	
災害防備のための保安林	53,882	53,882	
保健、風致の保存のための保安林	4,861	4,861	

注) 総数欄は、2以上の目的を達成するために指定される保安林があるため、水源涵養のための保安林等の内訳の合計に一致しないことがある。

イ 計画期間内において保安林の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等該当なし。

ウ 計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積該当なし。

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等該当なし。

(3) 実施すべき治山事業の数量  
別表5に示すとおり。

第6 その他必要な事項

1 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

(1) 制限林の所在及び面積

別表6に示すとおり。

(2) 保安林の区域内の森林

保安林区域内の施業方法は、森林法の規定により各保安林ごとに定められた指定施業要件の範囲内で行うものとし、一般的留意事項は次のとおりである。

ア 主伐の方法

(ア) 主伐できる立木は、本森林計画区で定める標準伐期齢以上のものとする。

(イ) 伐採方法は、以下の3区分とする。

① 伐採種を定めない（皆伐を含む自由な伐採方法がとれるもの）

② 択伐（伐採区域内の立木を均等な割合で、単木的又は10m未満の幅の帯状に選定し伐採するもの、あるいは樹群を単位とする伐採で、当該伐採により生ずる無立木地の面積が0.05haを超えないもの）

③ 禁伐（すべての立木の伐採を禁止するもの）

#### イ 伐採の限度

（ア）皆伐面積の限度は、森林法施行令の規定に基づき公表される面積の範囲内とする。

（イ）1箇所当たりの皆伐面積の限度は、当該保安林につき定められた指定施業要件の範囲内とする。

（ウ）防風、防霧保安林については、標準伐期齢以上である部分を幅20m以上にわたり帯状に残存させなければならない。

（エ）択伐の限度は、当該伐採年度の初日における、その森林の立木材積に択伐率を乗じ得られる材積を超えないものとする。

（オ）択伐率は、当該伐採年度の初日における当該森林の立木の材積から前回の択伐を終えたときの当該森林の立木の材積を減じて得た材積を当該伐採年度の初日における当該森林の立木の材積で除して算出するものとする。ただし、その算出された数字が10分の3を超えるときは10分の3とする。（指定施業要件において植栽を定める森林の伐採跡地につき、植栽によらなければ適確な更新が困難と認められる場合については10分の4とする。）

#### ウ 間伐の方法及び限度

伐採年度ごとに伐採することができる立木の材積は、原則として当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積の10分の3.5を超えず、かつその伐採によりその森林に係る樹冠疎密度が10分の8を下回ったとしても、当該伐採年度の翌年度の初日から起算しておおむね5年後において、その森林の当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実であると認められる範囲内の材積を超えないものとする。

#### エ 植栽の方法、期間及び樹種

（ア）伐採跡地への植栽は、満1年生以上の苗を、おおむね1ha当たり伐採跡地につき適確な更新を図るために必要なものとして農林水産省令で定める植栽本数以上の割合で均等に分布するように植栽するものとする。

（イ）植栽は、伐採が終了した年度の翌年度の初日から起算して原則2年以内に行うものとする。

（ウ）植栽する樹種は、保安機能の維持又は強化を図り、かつ経済的利用に資することができる樹種として指定施業要件で指定された樹種を植栽するものとする。

(3) 自然公園特別地域内における森林

自然公園特別地域内における森林の施業方法の決定は、次の特別地域における制限により行う。

区 分	制 限 内 容
特 別 保 護 区	特別保護地区内の森林は、禁伐とする。
第 一 種 特 別 地 域	<p>ア 第一種特別地域内の森林は、禁伐とする。 ただし、風致維持に支障のない場合に限り単木択伐法を行うことができる。</p> <p>イ 単木択伐法は、次の規定により行う。 (ア) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定する。 (イ) 択伐率は現存蓄積の10%以内とする。</p>
第 二 種 特 別 地 域	<p>ア 第二種特別地域内の森林の施業は、択伐法による。 ただし、風致維持に支障のない限り皆伐法によることができる。</p> <p>イ 公園計画に基づく車道、歩道、集団施設地区及び単独施設の周辺（造林地、要改良林分、薪炭林を除く）は、原則として単木択伐法によるものとする。</p> <p>ウ 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢以上とする。</p> <p>エ 択伐率は、用材林において現存蓄積の30%以内とする。</p> <p>オ 伐採及び更新に際し、特に風致上必要と認める場合は、自然環境局長（国定公園、道立自然公園にあつては知事）は、伐区、樹種、林型の変更を要望することができる。</p> <p>カ 特に指定した風致樹については、保育及び保護に努めることとする。</p> <p>キ 皆伐法による場合、その伐区は次のとおりとする。 (ア) 一伐区の面積は2ha以内とする。 ただし、樹冠疎密度3より多く保残木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合は、伐区面積を増大することができる。 (イ) 伐区は、更新後5年以上を経過しなければ連続して設定することはできない。 この場合においても、伐区は努めて分散させなければならない。</p>
第 三 種 特 別 地 域	第三種特別地域内の森林は、全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業の制限を受けないものとする。

(4) 史跡名勝天然記念物内における森林

史跡名勝天然記念物内における森林の施業方法の決定は、文化財保護法等の法令によるが、一般的な取扱いは次による。

区 分	制 限 内 容
史 跡 名 勝 天 然 記 念 物	原則として禁伐とする。ただし、属地的に保存の要件として被害木の除去、病虫害防除等の施業を行えるものとする。

(5) 鳥獣保護区内における森林

鳥獣保護区内における森林の施業方法の決定は「鳥獣保護区内の森林施業について（昭和39年1月17日付け39林野第1043号）」によるが、一般的な取扱いは次による。

区 分	制 限 内 容
鳥 獣 保 護 区 特 別 保 護 地 区	ア 伐採の方法を制限しなければ鳥獣の生息、繁殖又は安全に支障があると認められるものについては伐採種は択伐。 イ 伐採の方法を制限しなければ鳥獣の生息、繁殖又は安全に特に著しい支障があるものについては禁伐。 ウ その他の森林にあつては伐採種を定めない。 エ 地域別の森林計画の初年度以降5年間において皆伐できる面積の限度は、当該特別保護地区内の皆伐区域面積を標準伐期齢に相当する数で除して得た面積の5倍とする。 オ 保護施設を設けた樹木及び鳥獣の保護繁殖上必要があると認められる特定の樹種は禁伐とする。

(6) その他の制限林

伐採の方法及び限度は、法令等の制限の範囲内とする。

(7) その他

制限林が重複した場合の施業方法は、制限の強い方とする。

2 その他必要な事項

(1) 民有林と国有林が一体となった森林づくり

民有林と国有林が一体となった森林づくりを進めるため、北海道と連携して、森林資源の循環利用の推進による地域産業の活性化や雇用の創出、森林の整備・保全の推進による公益的機能の持続的な発揮に向けた取組を実施する。

## (2) 森林環境教育の推進

森林の整備及び保全に当たっては、森林の持つ多面的機能の効用についての地域住民を含めた国民の理解が不可欠である。

このため、多様な野外活動や教育の場としてフィールドを提供するほか、木とふれあい、木に学び、木と生きるを基本とする「木育」を進めるなど、森林環境教育を推進し、森林・林業に関する普及・啓発に努める。これら森林環境教育の推進にあたっては、木材の利用は森林を育てることにつながり、地球温暖化対策に寄与することについても、理解の促進に努める。

## (3) 開かれた国有林野事業の展開

森林の多面的な利用・活用のために、市民参加やボランティアの活動を支え、それに必要な情報を適切に発信することにより、広く開かれた国有林野事業を目指す。

## (4) 国民参加の森林づくり

清流を守り豊かな海を育むため漁業関係者との協働の下、植樹活動や育樹活動等を組織的に展開するとともに、森林づくり活動に対して国有林における機会の提供、森林整備等の活動に関する協定の締結や法人の森林等分収造林契約の締結などにより、支援・協力する。また、森林づくり活動の実施に当たっては、必要に応じて技術指導等の支援を行うとともに、地域住民や地域外の都市住民等の幅広い参加を呼びかけるなど、機会を捉え広く道民に清流を守り豊かな海を育むための森林づくりの趣旨等を普及・啓発し活動を推進する。

## (5) 濁水防止への配慮

水生生物の生息・生育環境の保全等のため、森林施業や土木工事等を実施する場合は、濁水の河川への流出防止に十分配慮する。

## (6) アイヌ文化振興への貢献

「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」に基づき、アイヌ文化振興に資する取組みを地域との連携を図り推進する。





# III 別 表



別表1 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

1 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積 : ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			168,515.74	
市町村別内訳	稚内市	※森林の区域（林小班）は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	19,484.56	Ⅱ-第3-4-(1)-イ-(ア)のとおり。
	猿払村		19,694.31	
	浜頓別町		15,797.70	
	中頓別町		24,405.71	
	枝幸町		47,224.11	
	豊富町		14,883.83	
	礼文町		6,445.66	
	利尻町		5,528.78	
	利尻富士町		7,011.54	
	幌延町		8,039.54	

2 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

① 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積 : ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			60,652.51	
市町村別内訳	稚内市	※森林の区域（林小班）は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	5,599.29	Ⅱ-第3-4-(1)-イ-(イ)のとおり。
	猿払村		1,747.20	
	浜頓別町		6,806.52	
	中頓別町		10,073.80	
	枝幸町		14,257.29	
	豊富町		12,418.90	
	礼文町		3,353.41	
	利尻町		2,283.25	
	利尻富士町		1,671.47	
	幌延町		2,441.38	

② 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積：ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			11,992.69	
市町村別内訳	稚 内 市	※森林の区域（林小班）は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	5,223.76	Ⅱ-第3-4-(1)-イ-(イ) のとおり。
	猿 払 村		109.08	
	浜 頓 別 町		127.40	
	中 頓 別 町		—	
	枝 幸 町		611.57	
	豊 富 町		1,005.57	
	礼 文 町		1,340.25	
	利 尻 町		2,254.87	
	利尻富士町		1,207.56	
	幌 延 町		112.63	

③ 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積：ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			30,706.24	
市町村別内訳	稚 内 市	※森林の区域（林小班）は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	2,217.90	Ⅱ-第3-4-(1)-イ-(イ) のとおり。
	猿 払 村		1,409.23	
	浜 頓 別 町		2,004.34	
	中 頓 別 町		6,483.72	
	枝 幸 町		6,955.79	
	豊 富 町		2,069.83	
	礼 文 町		3,206.68	
	利 尻 町		2,325.68	
	利尻富士町		3,488.92	
	幌 延 町		544.15	

別表2 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

単位 面積：ha

森林の所在		面積	留意すべき事項	備考
市町村	区域			
総 数		146,651		
稚 内 市	※森林の区域（林小班）は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	16,181	地形、地質、土壌等、気象の面から、森林の施業及び土地の形質変更に当たって土砂の流出または崩壊、水害等の災害の発生をもたらす、または地域における水源の確保、環境の保全に支障を及ぼすことのないように特に林地保全に留意する。	水かん、土流、土崩、干害、なだれ、その他
猿 払 村		19,063		水かん、土流、干害
浜 頓 別 町		15,066		水かん、土流、土崩
中 頓 別 町		21,527		水かん、土流、干害
枝 幸 町		38,860		水かん、土流、土崩、干害、魚つき、その他
豊 富 町		11,382		土流
礼 文 町		5,518		水かん、土流、土崩、干害、なだれ
利 尻 町		5,088		水かん
利 尻 富 士 町		6,567		水かん、土流、土崩、魚つき、その他
幌 延 町		7,399		水かん

注1) 備考欄の「水かん」は水源かん養保安林、「土流」は土砂流出防備保安林、「土崩」は土砂崩壊防備保安林、「その他」は砂防指定地である。

注2) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

別表3 鳥獣害防止森林区域

区 分		対象鳥獣の種類	森林の区域	単位 面積 : ha
総 数				面積
市 町 村 別 内 訳	稚 内 市	エゾシカ	※森林の区域（林班）は、 北海道森林管理局計画課に 備え置く別冊のとおりである。	7,874.58
	猿 払 村			11,636.00
	浜 頓 別 町			10,346.80
	中 頓 別 町			16,730.51
	枝 幸 町			19,153.06
	豊 富 町			6,125.47
	礼 文 町			—
	利 尻 町			—
	利尻富士町			—
	幌 延 町			—
総 数				71,866.42

注) 森林の区域は林班により表示するものとする。

別表4 開設又は拡張すべき林道の種類別及び箇所別の数量等

## ア 開設すべき林道の種類別及び箇所別の数量等

単位 延長：km、面積：ha

種類	区分	位置 (市町村)	路線名	延長	利用区域 面積	前半5カ 年の計画 箇所	対図 番号	備考	
自動車道 (管理)	林業専用道	稚内市	23林班	2.7	25		1-1		
		小計	1路線	2.7	25				
	林業専用道	浜頓別町	1083林班	2.0	57		2-2		
	林業専用道		1083林班支線	1.0	29		2-3		
	林業専用道		2022林班	4.0	102		3-4		
		小計	3路線	7.0	188				
	林業専用道	中頓別町	照陽支線	2.5	161	○	3-5		
		小計	1路線	2.5	161				
	林業専用道	枝幸町	オチャラベツ支線	2.3	128	○	4-6		
	林業専用道		3202林班	2.7	230	○	5-7		
	林業専用道		上風烈布支線	3.8	66		6-8		
		小計	3路線	8.8	424				
	林業専用道	豊富町	4109林班	1.3	44	○	7-9		
	林業専用道		採石沢支線	1.8	71	○	7-10		
	林業専用道		北沢	2.7	43		7-11		
		小計	3路線	5.8	158				
	林業専用道	幌延町	江辺頃支線	2.7	195	○	7-12		
	林業専用道		4098林班越	2.5	116	○	7-13		
		小計	2路線	5.2	311				
	管理計			13路線	32.0	1,267			
	合計			13路線	32.0	1,267			

注1) 開設には新設する路線以外に、既存の作業道を改良等により林業専用道に繰り入れするものを含む。

注2) 林道開設計画図については、北海道森林管理局計画課に備え置く。

## イ 拡張すべき林道の種類別及び箇所別の数量等

単位 延長：m

種類	位置 (市町村)	路線名	延長	箇所数	備考 (拡張の内容)
自動車道 (基幹)	—				
	小計	0路線	0	0	
基幹計		0路線	0	0	
合計		0路線	0	0	



別表5 治山事業の数量

単位 地区

所在		治山事業 施工地区数	主な工種	備考
市町村	区域（林班）			
稚内市	77, 78, 80~83, 85, 86, 1101	6	溪間工、山腹工、本数調整伐	
猿払村	1099	1	植栽工、本数調整伐	
浜頓別町	1097	1	本数調整伐	
礼文町	129~134, 137, 139, 151, 155~157, 163, 164	16	溪間工、山腹工、植栽工、本数調整伐	
利尻町	108~111	5	溪間工、本数調整伐	
利尻富士町	102~107, 118, 119, 121, 122, 125~127	10	溪間工、山腹工、植栽工、本数調整伐	
合計		39		

別表6 法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法		備考
	市町村	区域		伐採方法	その他	
保安林	水源かん養	稚内市	※森林の区域(林班)は、北海道森林管理局計画課に備え置く別冊のとおりである。	※保安林の指定施業要件の範囲内とする。		
		猿払村				
		浜頓別町				
		中頓別町				
		枝幸町				
		礼文町				
		利尻町				
		利尻富士町				
		幌延町				
	小計					
	土砂流出防備	稚内市				
		猿払村				
		浜頓別町				
		中頓別町				
		枝幸町				
		豊富町				
		礼文町				
		利尻富士町				
	小計					
	土砂崩壊防備	稚内市				
		浜頓別町				
		枝幸町				
		礼文町				
		利尻富士町				
	小計					
	防風	稚内市				
		猿払村				
		浜頓別町				
		枝幸町				
		豊富町				
		利尻富士町				
		幌延町				
	小計					
干害防備	稚内市					
	猿払村					
	中頓別町					
	枝幸町					
	礼文町					
小計						
小計						

単位 面積：ha

種 類	森林の所在		面積	施業方法		備考
	市町村	区 域		伐 採 方 法	その他	
保安林	なだれ 防止	稚内市	75.96	※保安林の指定 施業要件の範囲 内とする。		
		礼文町	10.36			
	小計		86.32			
	魚つき	枝幸町	(85.48) 1.14			
		利尻富士町	57.84			
	小計		(85.48) 58.98			
	航行目標	稚内市	14.84			
	小計		14.84			
	保健	稚内市	(1,062.59) 0.16			
		浜頓別町	(87.17) 382.34			
		中頓別町	1,272.47			
		枝幸町	(357.72)			
		利尻町	(186.92) 198.09			
		利尻富士町	(412.56) 359.10			
	小計		(2,106.96) 2,212.16			
	風致	浜頓別町	(382.34)			
	小計		(382.34)			
計		(2,593.12) 151,670.80				
砂防指定地	稚内市	(1.67)	択伐、禁伐			
	枝幸町	0.91				
	利尻富士町	(10.60) 0.05				
計		(12.27) 0.96				
国立公園	特別保護 地区	稚内市	131.74	※Ⅱ 第6-1 (3)の表によ る。		利尻 礼文 サロベツ 国立公園
		豊富町	(1,339.39) 280.62			
		礼文町	(802.13) 332.55			
		利尻町	(1,249.67)			
		利尻富士町	(1,956.41) 0.06			
		幌延町	(268.49) 161.37			
	小計		(5,616.09) 906.34			

※森林の区域  
(林班)は、  
北海道森林管  
理局計画課に  
備え置く別冊  
のとおりである。

単位 面積：ha

種 類	森林の所在		面積	施業方法		備考
	市町村	区 域		伐 採 方 法	その他	
国立公園	第一種 特別地域	礼文町	(136.78)	※Ⅱ 第6-1 (3)の表によ る。		利尻礼文サロベツ国立公園
		利尻町	0.38			
		利尻富士町	(871.36)			
		幌延町	1.26			
	小計		(891.69)			
			0.10			
			(72.97)			
			6.70			
	小計		(1,972.80)			
			8.44			
	第二種 特別地域	稚内市	(33.17)			
		礼文町	24.92			
		利尻町	(494.93)			
		利尻富士町	0.06			
		幌延町	(96.30)			
	小計		0.56			
			(453.88)			
		3.86				
		(15.60)				
		0.40				
小計		(1,093.88)				
		29.80				
第三種 特別地域	礼文町	(1,927.19)				
	利尻町	159.89				
	利尻富士町	(779.24)				
	幌延町	5.18				
小計		(1,679.39)				
		23.88				
		(18.62)				
		188.95				
計		(13,087.21)				
		1,133.53				
道立自然公園	第一種 特別地域	浜頓別町	(469.51)	※Ⅱ 第6-1 (3)の表によ る。		北オホーツク道立自然公園
		枝幸町	1.50			
	小計		(38.40)			
			(507.91)			
			1.50			
第二種 特別地域	浜頓別町	(101.75)				
	小計		61.29			
		(101.75)				
		61.29				
計		(609.66)				
		62.79				

単位 面積：ha

種 類	森林の所在		面積	施業方法		備考	
	市町村	区 域		伐 採 方 法	その他		
鳥獣保護区 特別保護地区	浜頓別町	※森林の区域 (林班)は、 北海道森林管 理局計画課に 備え置く別冊 のとおりであ る。	(40.00)	※Ⅱ 第6-1 (5)の表によ る。			
	中頓別町		(59.82)				
	枝幸町		(48.51)				
計	(148.33)						
史跡名勝 天然記念物	稚内市		(0.36)			※Ⅱ 第6-1 (4)の表によ る。	
	浜頓別町		(87.17)				
	枝幸町		(38.40)				
	豊富町		(1,620.01)				
	礼文町		(138.49)				
	利尻町		(29.68)				
計	(1,914.11)						

注) ( ) 書の数値は重複制限林で外数である。

## 別 添

- 開設林道路線一覽表
- 林道開設計画図



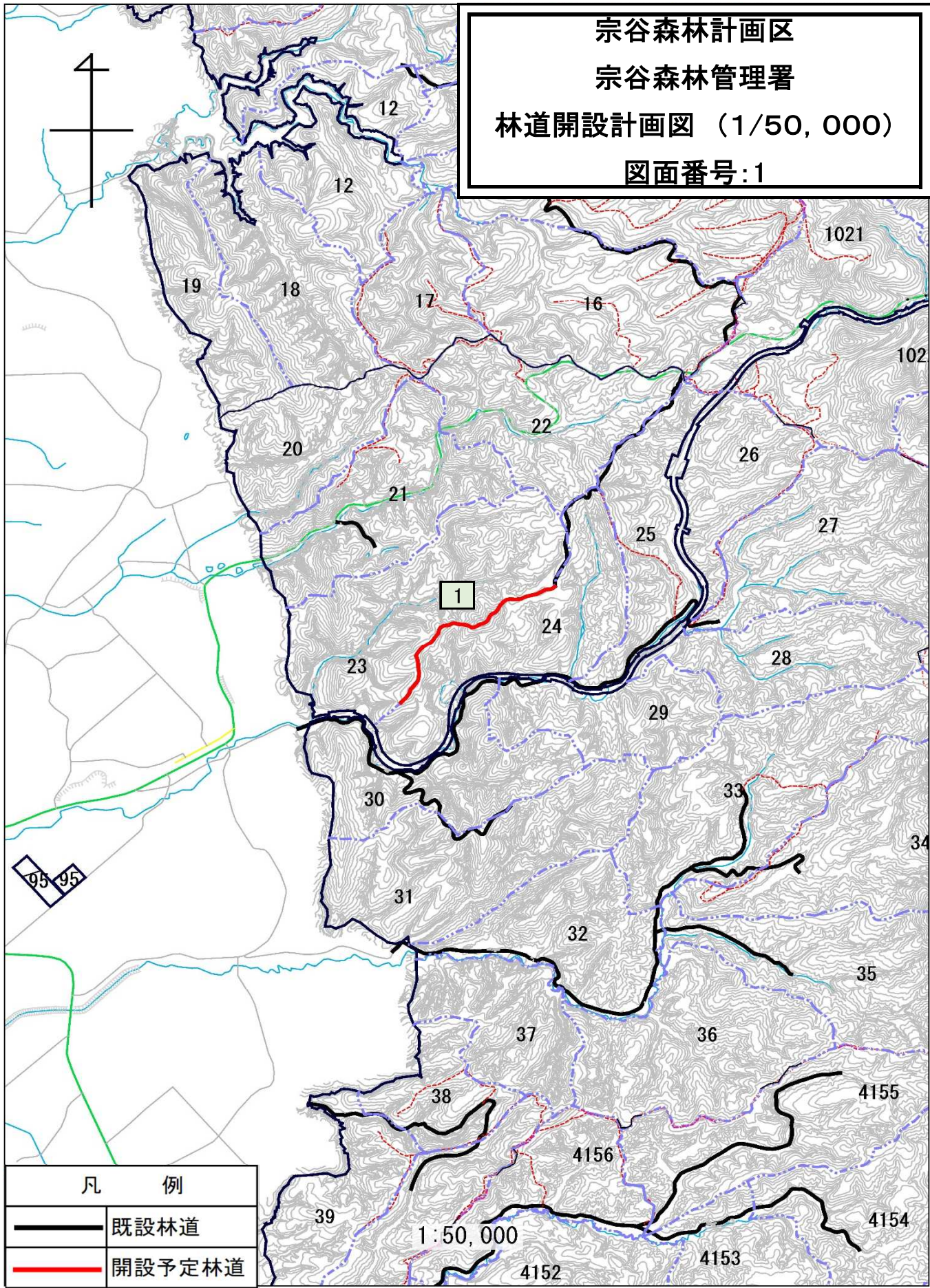
# 開設林道路線一覽表

森林計画区	森林管理(支)署	市町村	図面番号	路線番号	路 線 名	代表林班	延長(km)		
宗谷	宗谷	稚内市	1	1	2 3 林班	23	2.7		
		浜頓別町	2	2	1 0 8 3 林班	1083	2.0		
			2	3	1 0 8 3 林班支線	1083	1.0		
			3	4	2 0 2 2 林班	2022	4.0		
		中頓別町	3	5	照陽支線	2039	2.5		
		枝幸町	4	6	オチャラベツ支線	3159	2.3		
			5	7	3 2 0 2 林班	3202	2.7		
			6	8	上風烈布支線	3056	3.8		
		豊富町	7	9	4 1 0 9 林班	4109	1.3		
			7	10	採石沢支線	4109	1.8		
			7	11	北沢	4115	2.7		
		幌延町	7	12	江辺頃支線	4095	2.7		
			7	13	4 0 9 8 林班越	4098	2.5		
		※ 図面上で開設林道路線は赤い線で表記						宗谷森林計画区計	32.0





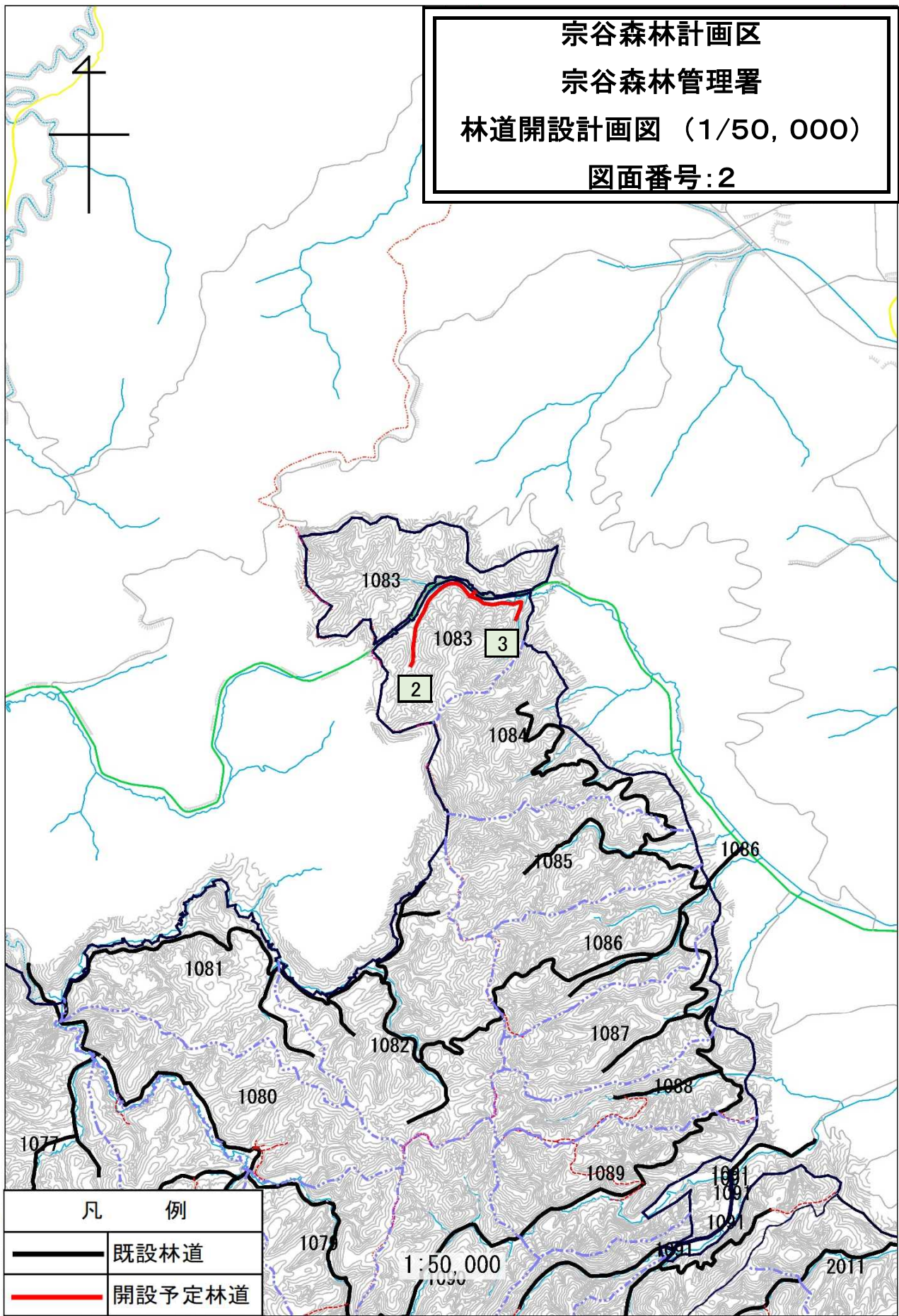
宗谷森林計画区  
 宗谷森林管理署  
 林道開設計画図 (1/50,000)  
 図面番号:1



凡 例	
	既設林道
	開設予定林道

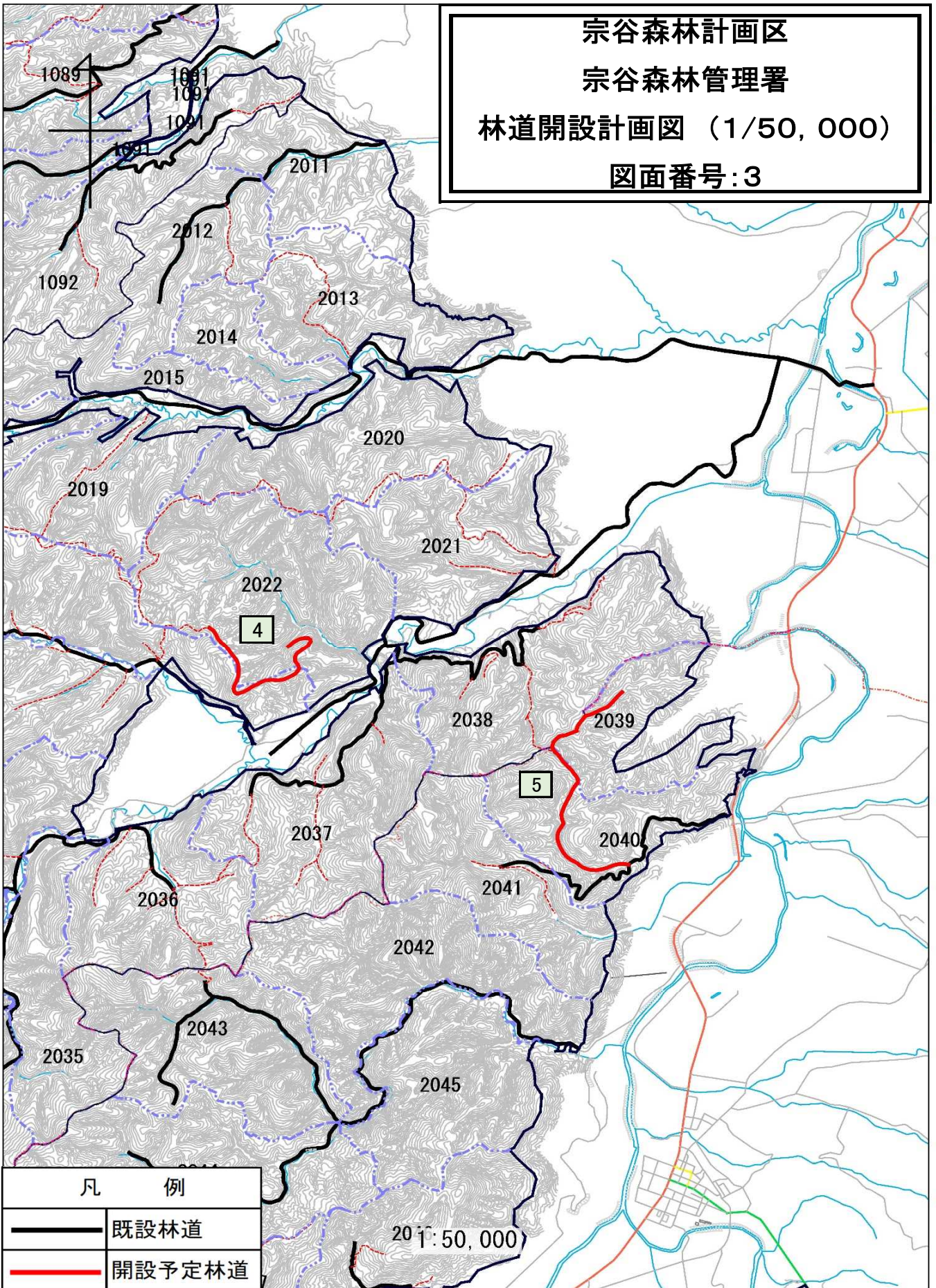
1:50,000

宗谷森林計画区  
 宗谷森林管理署  
 林道開設計画図 (1/50,000)  
 図面番号:2

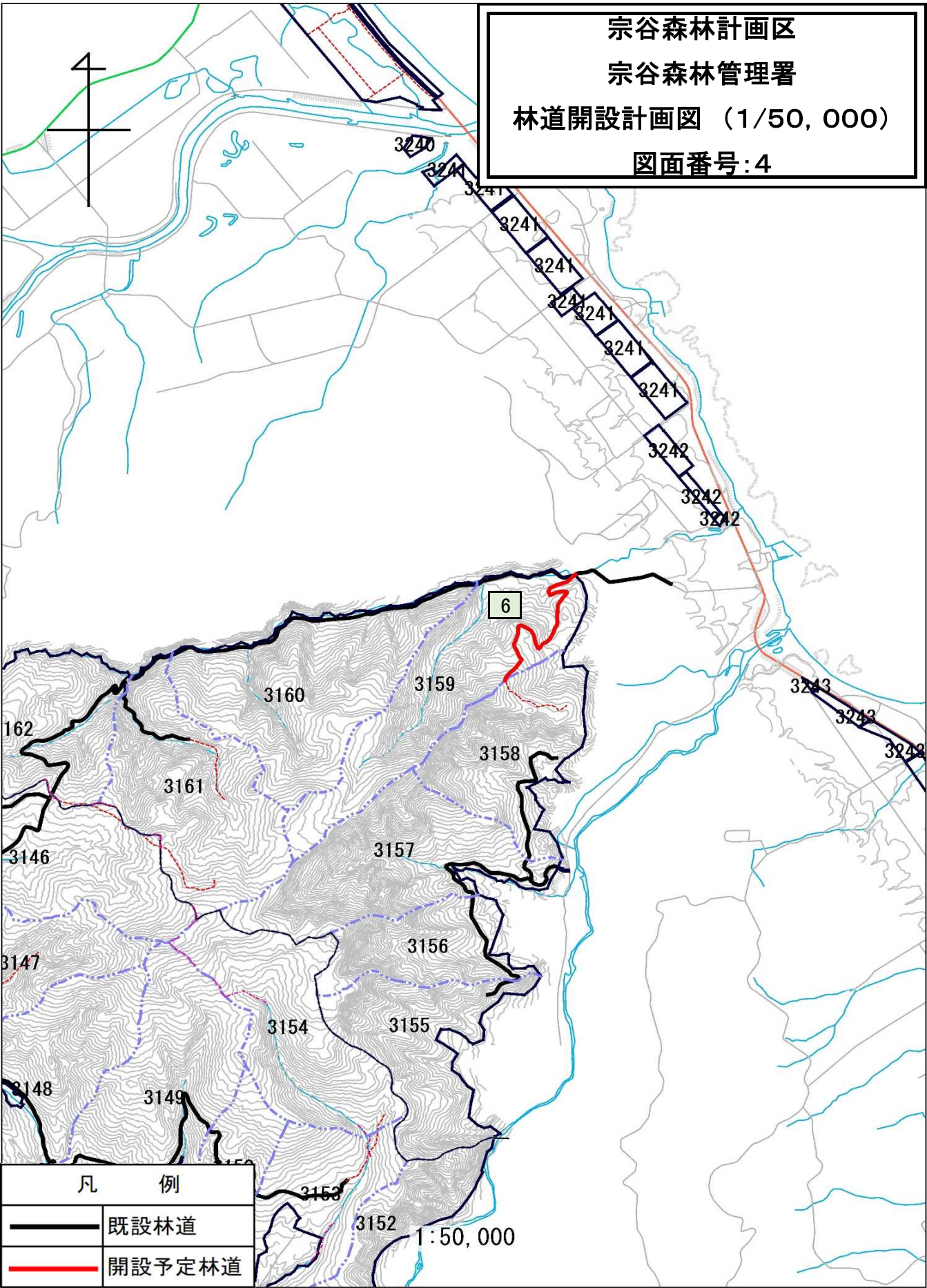


凡 例	
	既設林道
	開設予定林道

宗谷森林計画区  
宗谷森林管理署  
林道開設計画図 (1/50,000)  
図面番号:3



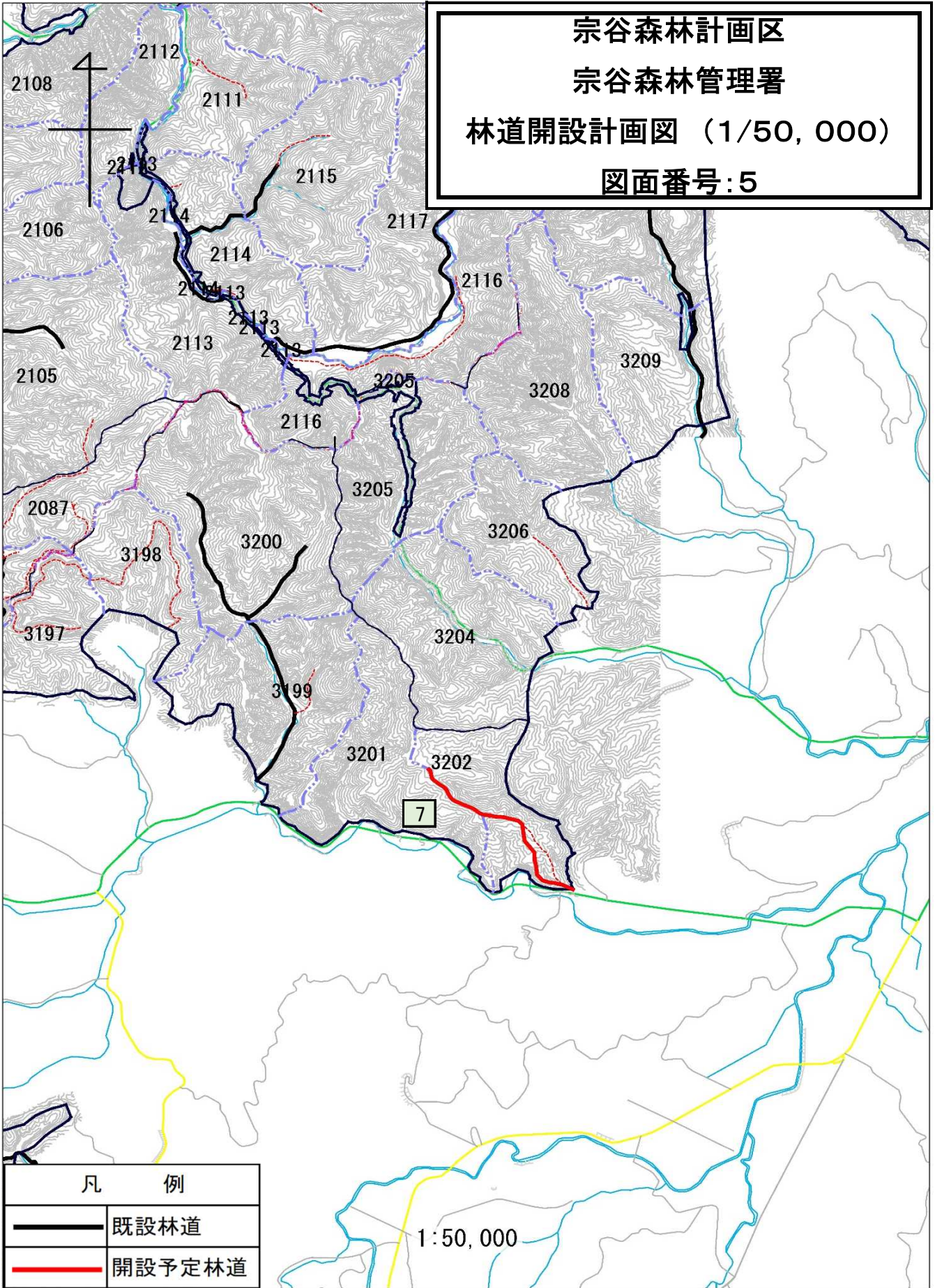
宗谷森林計画区  
 宗谷森林管理署  
 林道開設計画図 (1/50,000)  
 図面番号:4



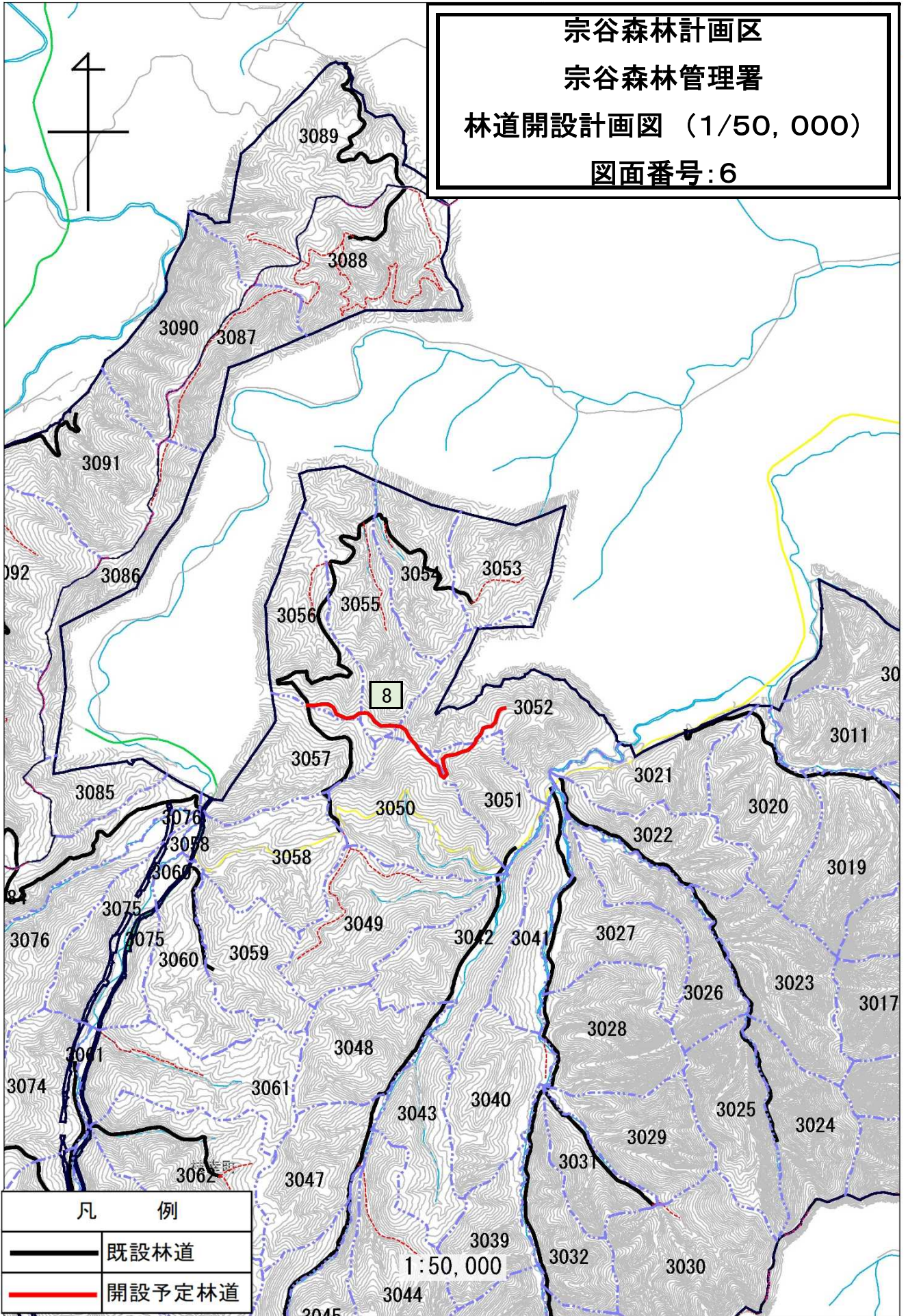
凡 例	
	既設林道
	開設予定林道

1:50,000

宗谷森林計画区  
宗谷森林管理署  
林道開設計画図 (1/50,000)  
図面番号:5



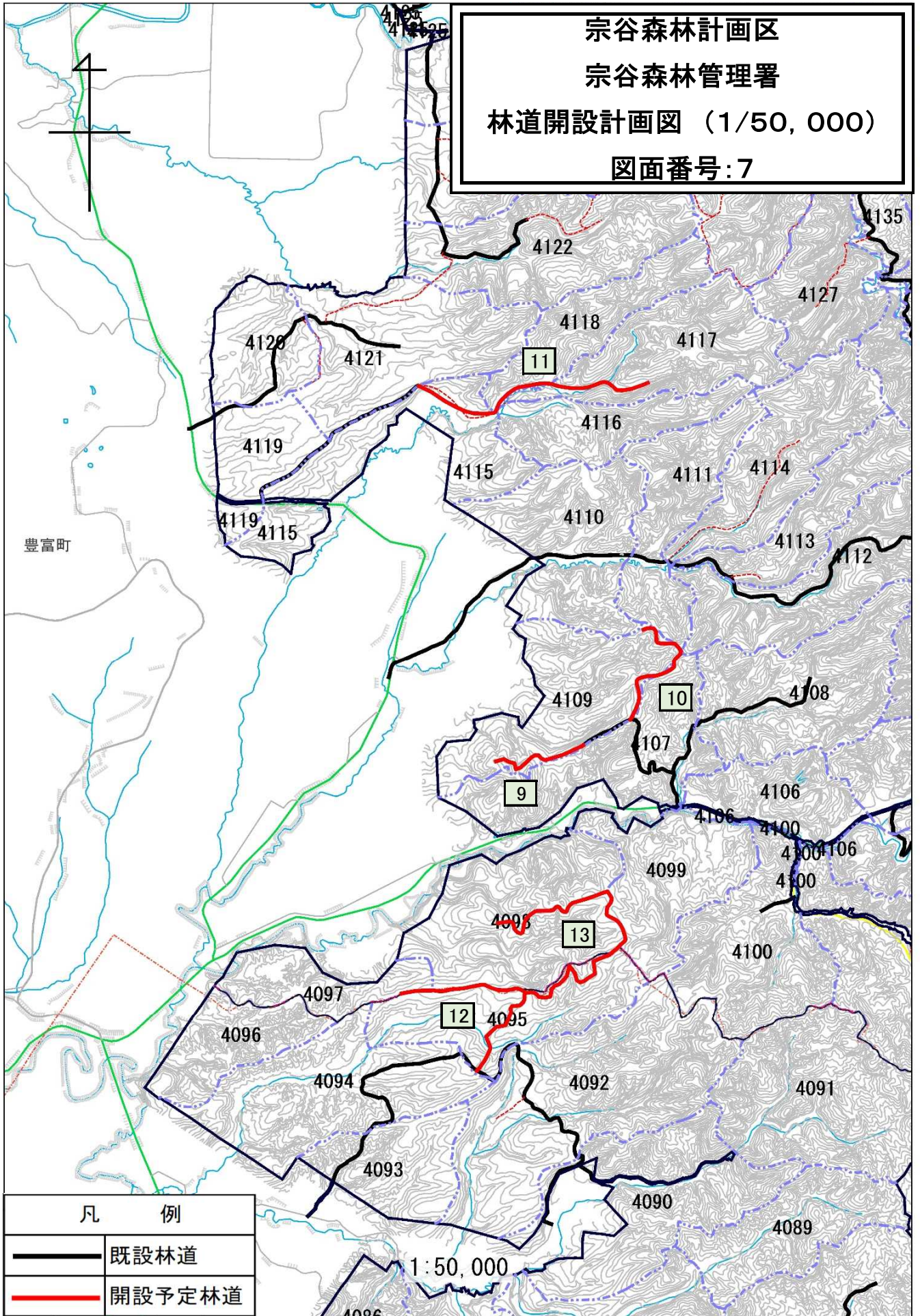
宗谷森林計画区  
 宗谷森林管理署  
 林道開設計画図 (1/50,000)  
 図面番号:6



凡 例

	既設林道
	開設予定林道

宗谷森林計画区  
 宗谷森林管理署  
 林道開設計画図 (1/50,000)  
 図面番号:7



凡 例

	既設林道
	開設予定林道

1:50,000



## (附) 参 考 资 料

# 1 森林計画区の概況

## (1) 市町村別土地面積及び森林面積

区 分	区域面積 (A)	森 林 面 積			森林比率 B/A	
		総数(B)	国有林	民有林		
総 数	462,607	325,789	169,083	156,707	70%	
市町村 内 訳	稚 内 市	76,147	43,613	19,812	23,801	57%
	猿 払 村	58,997	45,285	19,874	25,411	77%
	浜 頓 別 町	40,164	26,298	15,795	10,503	65%
	中 頓 別 町	39,851	33,484	24,406	9,078	84%
	枝 幸 町	111,593	90,765	47,240	43,525	81%
	豊 富 町	52,069	26,448	14,928	11,520	51%
	礼 文 町	8,164	6,507	6,446	61	80%
	利 尻 町	7,651	6,182	5,529	653	81%
	利尻富士町	10,561	8,627	7,014	1,613	82%
幌 延 町	57,410	38,580	8,040	30,541	67%	

注1) 区域面積は「第127回(令和2年)北海道統計書」、森林面積は「平成30年度北海道林業統計(令和2年3月)」による。

なお、森林面積(国有林)は、森林管理局所管国有林及びその他国有林である。

2) 計は四捨五入のため必ずしも一致しない。

## (2) 地 況

### ア 気 候

観測地	気温(°C)			年降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	風速(m/s)		風向	備考
	最高	最低	平均			最大	平均		
宗谷岬	27.3	-11.8	7.0	1,067	—	24.0	7.6	西北西	アメダス
稚内	27.8	-12.2	7.6	1,222	26	24.0	4.8	北東	気象台・測候所
沼川	29.0	-23.9	6.2	1,230	59	10.3	2.2	東北東	アメダス
声間	28.4	-18.2	6.7	1,006	36	20.7	6.0	北東	アメダス
浜鬼志別	27.6	-17.0	6.1	975	56	20.7	4.7	北北東	アメダス
浜頓別	29.1	-17.7	6.5	875	—	12.3	2.7	北北東	アメダス
中頓別	31.5	-27.8	6.0	1,438	110	9.7	1.6	西南西	アメダス
北見枝幸	30.9	-16.4	6.9	1,202	75	17.6	3.7	北北東	気象台・測候所
歌登	31.8	-28.3	5.9	1,489	131	9.7	2.0	東北東	アメダス
豊富	30.5	-21.0	6.7	1,148	53	10.6	2.7	西北西	アメダス
礼文	29.0	-11.8	7.4	1,293	—	15.7	3.5	東	アメダス
杓形	30.4	-11.9	8.0	1,142	—	16.2	3.4	北北東	アメダス
本泊	29.7	-12.5	7.5	1,252	—	20.2	6.4	北東	アメダス
幌延	—	—	—	1,041	—	—	—	—	アメダス

注1) 気象庁HP「気象統計情報(<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)」検索結果による。

2) 気象データは2020年のデータである。

## イ 地 勢

### (ア) 主な山岳

山岳名	標高(m)	所在等
礼文岳	490	礼文・利尻
利尻山(利尻富士)	1,721	礼文・利尻
幌尻山	427	宗谷丘陵
パンケ山	632	宗谷丘陵
ポロヌプリ山	841	北見山地
敏音知岳	703	北見山地
函岳	1,129	北見山地

注) 国土地理院日本の主な山岳標高<https://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/kihonjohochousa41197.html>による。

### (イ) 主な河川等

湖沼名	所在地	面積 (km <sup>2</sup> )	備 考
クツチャロ湖	浜頓別町	13.40	
大 沼	稚内市	4.67	
パンケ沼	幌延町	3.55	
ポロ沼	猿払村	1.97	
ペンケ沼	豊富町・幌延町	1.27	

注) 第127回(令和2年)北海道統計書による。

(3) 土地利用の状況

単位 面積:ha

区 分	総数	森林	農 地			その他		
			総数	うち田	うち畑		うち牧場	
総 数	462,607	325,789	76,397	-	55,860	20,537	60,421	
市町村 内訳	稚 内 市	76,147	43,613	18,072	-	10,972	7,100	14,462
	猿 払 村	58,997	45,285	6,871	-	6,227	644	6,841
	浜 頓 別 町	40,164	26,298	6,986	-	4,320	2,666	6,880
	中 頓 別 町	39,851	33,484	4,578	-	3,443	1,135	1,789
	枝 幸 町	111,593	90,765	13,005	-	10,999	2,006	7,823
	豊 富 町	52,069	26,448	16,523	-	10,460	6,063	9,098
	礼 文 町	8,164	6,507	234	-	231	3	1,423
	利 尻 町	7,651	6,182	215	-	214	1	1,254
	利尻富士町	10,561	8,627	899	-	829	70	1,035
幌 延 町	57,410	38,580	9,014	-	8,167	847	9,816	

注1) 総数及び農地は「第127回(令和2年)北海道統計書」、森林面積は「平成30年度北海道林業統計(令和2年3月)」による。

2) 計は四捨五入のため必ずしも一致しない。

(4) 産業別就業者数

単位 人数:人

区 分	総数	第1次産業				第2次 産 業	第3次 産 業	分類不能 の 産 業	
		総数	農業	林業	漁業				
総 数	34,429	5,877	2,128	236	3,513	6,783	20,649	1,120	
市町村 内訳	稚 内 市	16,928	1,287	457	62	768	3,390	11,267	984
	猿 払 村	1,568	545	210	2	333	391	631	1
	浜 頓 別 町	2,075	390	196	34	160	512	1,153	20
	中 頓 別 町	890	152	131	18	3	113	582	43
	枝 幸 町	4,565	1,141	364	84	693	1,162	2,255	7
	豊 富 町	2,188	552	515	24	13	322	1,304	10
	礼 文 町	1,798	652	-	1	651	225	919	2
	利 尻 町	1,407	437	2	0	435	179	791	0
	利尻富士町	1,619	460	2	1	457	263	889	7
幌 延 町	1,391	261	251	10	-	226	858	46	

注) 平成27年国勢調査による。

2 森林の現況

(1) 齢級別森林資源表

森林計画区:009 宗谷

単位 面積:ha、材積:1,000m<sup>3</sup>、立竹:1,000束、成長量:1,000m<sup>3</sup>

区分	総数			1齢級			2齢級			3齢級			4齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	総数	168,553.55	21,883	353	395.13	6	145.36	319.69	1	319.69	377.44		377.44		
	針	155,432.36	21,883	353	395.13	6	145.36	319.69	1	319.69	377.44		377.44		
	広	81,569.35	11,546	240	392.15	6	130.68	236.54	1	236.54	357.92		357.92		
総数	総数	73,863.01	10,337	113	2.98		14.68	83.15		83.15	19.52		19.52		
	針	41,089.63	6,236	173	387.10		141.91	299.44		299.44	375.90		375.90		
	広	40,387.03	5,133	156	384.64		127.23	234.92		234.92	356.38		356.38		
育成林	総数	702.60	1,103	17	2.46		14.68	64.52		64.52	19.52		19.52		
	針	40,615.32	6,142	172	27.55		101.20	273.11		273.11	345.84		345.84		
	広	39,919.85	5,046	155	25.09		86.52	215.72		215.72	326.32		326.32		
人工林	総数	695.47	1,096	17	2.46		14.68	57.39		57.39	19.52		19.52		
	針	(474.31)													
	広	(39.49)						(39.49)		(39.49)					
育成林	総数	474.31	94	1	359.55		40.71	26.33		26.33	30.06		30.06		
	針	467.18	87	1	359.55		40.71	19.20		19.20	30.06		30.06		
	広	7.13	7					7.13		7.13					
総数	総数	114,342.73	15,647	180	8.03	6	3.45	20.25		20.25	1.54		1.54		
	針	41,182.32	6,413	85	7.51	6	3.45	1.62		1.62	1.54		1.54		
	広	73,160.41	9,234	96	0.52			18.63		18.63					
天然林	総数														
	針														
	広														
育成林	総数	28,514.66	3,512	52	7.50	1	3.45	20.25		20.25	1.54		1.54		
	針	10,557.57	1,368	23	7.02	1	3.45	1.62		1.62	1.54		1.54		
	広	17,957.09	2,144	29	0.48			18.63		18.63					
天然林	総数	85,828.07	12,135	128	0.53	5									
	針	30,624.75	5,045	61	0.49	5									
	広	55,203.32	7,090	66	0.04										
無立木地															
		13,121.19													

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみ林分については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3.( )は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

森林計画区:009 宗谷

単位 面積:ha、材積:1,000m<sup>3</sup>、立竹:1,000束、成長量:1,000m<sup>3</sup>

区分	5齢級			6齢級			7齢級			8齢級			9齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	321.41	2		454.33	12	1	3,235.88	255	16	5,946.86	683	34	5,937.29	886	33
総数	321.41	2		454.33	12	1	3,235.88	255	16	5,946.86	683	34	5,937.29	886	33
針	319.25			442.38	7	1	3,100.43	180	15	5,848.65	511	32	5,799.60	704	30
広	2.16	1		11.95	5	1	135.45	75	1	98.21	172	3	137.69	182	3
総数	321.41	2		439.24	11	1	3,061.91	246	16	5,811.53	673	34	5,760.33	876	33
針	319.25			439.24	7	1	3,060.40	178	15	5,811.53	508	31	5,760.33	701	30
広	2.16	1			4		1.51	68	1		165	3		175	3
総数	321.41	2		439.24	11	1	3,061.91	246	16	5,811.53	673	34	5,760.33	876	33
針	319.25			439.24	7	1	3,060.40	178	15	5,811.53	508	31	5,760.33	701	30
広	2.16	1			4		1.51	68	1		165	3		175	3
人工林															
育															
復															
層															
成															
成															
林															
立木地															
総数				15.09	1		173.97	9		135.33	10		176.96	10	
針				3.14			40.03	2		37.12	3		39.27	3	
広				11.95	1		133.94	7		98.21	7		137.69	7	
総数															
針															
広															
天然林															
育				15.09	1		173.97	9		135.33	10		176.96	10	
成				3.14			40.03	2		37.12	3		39.27	3	
成				11.95	1		133.94	7		98.21	7		137.69	7	
林															
天然															
生															
林															
竹															
林															
無立木地															

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみ林分については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3.( )は、人工林の育成復層林の上、中層木の面積で外書。

森林計画区:009 宗谷

単位 面積:ha、材積:1,000m<sup>3</sup>、立竹:1,000束、成長量:成長量:1,000m<sup>3</sup>

区分	10齢級			11齢級			12齢級			13齢級			14齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	6,304.86	987	29	6,363.16	1,086	25	7,507.38	1,300	24	4,794.98	789	12	2,102.55	297	4
総数	6,304.86	987	29	6,363.16	1,086	25	7,507.38	1,300	24	4,794.98	789	12	2,102.55	297	4
針	5,881.26	799	26	5,836.54	907	23	6,761.83	1,053	20	3,942.63	605	9	1,317.11	199	3
広	423.60	188	3	526.62	180	3	745.55	247	4	852.35	185	3	785.44	98	2
総数	5,770.09	949	28	5,876.35	1,048	25	6,843.91	1,232	22	3,865.07	687	10	1,053.27	196	2
針	5,760.71	788	25	5,739.03	898	22	6,616.17	1,035	19	3,671.09	567	8	1,033.61	168	2
広	9.38	161	3	137.32	150	2	227.74	198	3	193.98	120	2	19.66	28	
青単層成林	5,770.09	949	28	5,876.35	1,048	25	6,843.91	1,232	22	3,865.07	686	10	1,053.27	187	2
針	5,760.71	788	25	5,739.03	898	22	6,616.17	1,034	19	3,671.09	566	8	1,033.61	161	2
広	9.38	161	3	137.32	150	2	227.74	198	3	193.98	120	2	19.66	26	
人工林							(1.29)			(6.26)			(51.31)		
育復層成林															
総数															
針															
広															
総数	534.77	38	1	486.81	38	1	663.47	68	1	929.91	102	2	1,049.28	101	2
針	120.55	11		97.51	8		145.66	18		271.54	38	1	283.50	31	1
広	414.22	26	1	389.30	30	1	517.81	50	1	658.37	65	1	765.78	70	1
青単層成林															
針															
広															
青復層成林	534.77	38	1	440.18	36	1	528.00	58	1	856.22	95	2	1,016.37	99	2
針	120.55	11		97.51	8		145.49	18		270.99	38	1	280.80	30	1
広	414.22	26	1	342.67	28	1	382.51	40	1	585.23	57	1	735.57	68	1
天然林				46.63	2		135.47	9		73.69	8		32.91	2	
針							0.17			0.55			2.70		
広				46.63	2		135.30	9		73.14	7		30.21	2	
竹林															
無立木地															

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3.( )は、人工林の育成復層林の上、中層木の面積で外書。

森林計画区:009 宗谷

単位 面積:ha、材積:1,000m<sup>3</sup>、立竹:1,000束、成長量:1,000m<sup>3</sup>

区分	15齢級			16齢級			17齢級			18齢級			19齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	550.59	64	1	1,432.86	250	3	1,205.57	205	3	4,688.14	553	7	2,560.32	344	4
総数	550.59	64	1	1,432.86	250	3	1,205.57	205	3	4,688.14	553	7	2,560.32	344	4
針	202.02	26		658.30	133	1	459.87	81	1	1,252.00	165	2	820.08	126	1
広	348.57	38	1	774.56	117	2	745.70	124	2	3,436.14	388	5	1,740.24	218	3
総数	61.34	13		462.33	121	1	145.28	53		201.91	64		211.31	64	
針	60.34	11		460.94	106	1	145.28	46		198.92	60		207.02	59	
広	1.00	2		1.39	15			7		2.99	4		4.29	5	
総数	61.34	13		462.33	99	1	145.28	34		201.91	42		193.65	44	
針	60.34	11		460.94	85	1	145.28	28		198.92	39		189.36	41	
広	1.00	2		1.39	13		(81.79)	6		2.99	3		4.29	4	
				(100.28)						(123.49)			(105.45)		
総数					22			18			22		17.66	20	
針					21			17			20		17.66	18	
広					1			1			1			2	
総数	489.25	51	1	970.53	130	2	1,060.29	153	2	4,486.23	489	7	2,349.01	279	4
針	141.68	15		197.36	27		314.59	36	1	1,053.08	105	2	613.06	67	1
広	347.57	36	1	773.17	102	1	745.70	117	2	3,433.15	384	5	1,735.95	212	3
総数															
針															
広															
総数	386.53	38	1	537.49	57	1	709.43	89	1	3,058.45	290	4	1,605.99	170	2
針	130.60	14		148.43	18		302.22	33	1	913.38	86	1	572.53	61	1
広	255.93	24		389.06	39	1	407.21	56	1	2,145.07	204	3	1,033.46	109	1
総数	102.72	13		433.04	72	1	350.86	64	1	1,427.78	199	3	743.02	110	1
針	11.08	1		48.93	9		12.37	2		139.70	19		40.53	6	
広	91.64	12		384.11	63	1	338.49	61	1	1,288.08	180	2	702.49	104	1
竹林															
無立木地															

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3.( )は、人工林の育成復層林の上、中層木の面積で外書。



森林計画区:009 宗谷

区分	20齢級			21齢級以上		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	7,476.64	673	8	93,311.92	13,490	149
総数	7,476.64	673	8	93,311.92	13,490	149
針	1,233.34	131	2	36,576.77	5,912	75
広	6,243.30	541	6	56,735.15	7,578	73
総数		1				
針		1				
広						
育成林						
育成林						
育成林						
育成林	(4.44)					
育成林		1				
針		1				
広						
総数	7,476.64	672	8	93,311.92	13,490	149
針	1,233.34	130	2	36,576.77	5,912	75
広	6,243.30	541	6	56,735.15	7,578	73
総数						
針						
広						
育成林	2,781.09	310	4	15,526.05	2,201	31
針	793.98	82	1	6,647.90	959	15
広	1,987.11	228	3	8,878.15	1,242	16
育成林	4,695.55	362	4	77,785.87	11,288	117
針	439.36	49	1	29,928.87	4,953	60
広	4,256.19	313	3	47,857.00	6,335	57
竹林						
無立木地						

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3.( )は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

(2) 制限林普通林別森林資源表

森林計画区:009 宗谷

区分	立木地										無立木地等					計		
	人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植 予定地	林地以外の 土地	計			
	育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	竹林	計									
制限林	面積	針 35,650.16	211.47	35,861.63	9,635.89	28,776.10	38,411.99			74,273.62								
		広 628.42	7.13	635.55	15,575.04	50,555.24	66,130.28			66,765.83								
	材積	針 4,526.417	218.60	4,745.017	25,210.93	79,331.34	104,542.27			141,039.45								
普通林	面積	針 5,474.147	43.466	5,517.613	3,011.492	11,193.140	14,204.632			19,722.245								
		広 142,886.4	238.3	143,124.7	20,961.2	57,338.2	78,299.4			221,424.1								
	成長量	針 157,675.6	314.0	157,989.6	45,424.7	117,010.9	162,435.6			320,425.2								
計	面積	針 4,269.69	255.71	4,525.40	2,382.05	4,648.08	7,030.13			7,097.18								
		広 4,336.74	255.71	4,592.45	3,303.73	6,496.73	9,800.46			14,392.91								
	材積	針 148,183	2,730	150,913	367,685	639,033	1,006,718			1,157,631								
計	面積	針 12,140.8	319.1	12,459.9	500,759	941,460	1,442,219			2,160,511								
		広 2,343.8	43.7	2,387.5	2,140.3	4,107.9	6,248.2			18,708.1								
	成長量	針 14,484.6	362.8	14,847.4	6,958.2	10,749.0	17,707.2			32,554.6								
計	面積	針 39,919.85	467.18	40,387.03	17,957.09	55,203.32	73,160.41			81,569.35								
		広 695.47	7.13	702.60	10,557.57	30,624.75	41,182.32			73,863.01								
	材積	針 40,615.32	474.31	41,089.63	28,514.66	85,828.07	114,342.73			155,432.36								
計	面積	針 5,046.025	86.504	5,132.529	1,367.986	5,045.038	6,413.024			11,545.553								
		広 1,095.913	7.463	1,103.376	2,144.265	7,089.562	9,233.827			10,337.203								
	成長量	針 6,141.938	93.967	6,235.905	3,512.251	12,134.600	15,646.851			21,882,756								
計	面積	針 155,027.2	557.4	155,584.6	23,101.5	61,446.1	84,547.6			240,132.2								
		広 17,133.0	119.4	17,252.4	29,281.4	66,313.8	95,595.2			112,847.6								
	成長量	針 172,160.2	676.8	172,837.0	52,382.9	127,759.9	180,142.8			352,979.8								

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみ林分の面積については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

(3) 市町村別森林資源表

森林計画区: 009 宗谷

市町村	区分	立木地										無立木地等					計							
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改種予定地	林地以外の土地	計								
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	計															
稚内市	面積	針	5,068.18	158.48	5,226.66	1,265.30	2,313.44	3,578.74																
		計	28.76		28.76	1,408.41	7,594.58	9,002.99																
	材積	針	5,096.94	158.48	5,255.42	2,673.71	9,908.02	12,581.73																
		計	796.606	26.858	823.464	174,114	286,480	460,594																
	成長量	針	861.272	29,568	890,840	338,271	1,017,761	1,356,032																
		計	25,040.2	180.9	25,221.1	3,097.7	3,519.6	6,617.3																
猿払村	面積	針	26,064.0	224.3	26,288.3	5,387.8	11,077.9	16,465.7																
		計	6,316.50		6,316.50	1,960.31	4,171.89	6,132.20																
	材積	針	6,321.73		6,321.73	3,719.02	9,022.48	12,741.50																
		計	893.372		893.372	223,468	621,742	845,210																
	成長量	針	998,422		998,422	403,790	1,219,679	1,623,469																
		計	29,983.2		29,983.2	3,622.5	8,163.1	11,785.6																
浜頓別町	面積	針	1,680.7		1,680.7	2,365.0	5,528.3	7,993.3																
		計	31,663.9		31,663.9	5,987.5	13,691.4	19,678.9																
	材積	針	4,887.43		4,887.43	1,191.43	3,265.11	4,456.54																
		計	20.34		20.34	1,320.17	4,485.10	5,805.27																
	成長量	針	4,907.77		4,907.77	2,511.60	7,750.21	10,261.81																
		計	573,912		573,912	165,880	534,082	699,962																
中頓別町	面積	針	111,997		111,997	161,587	626,445	788,032																
		計	685,909		685,909	327,467	1,160,527	1,487,994																
	材積	針	16,896.3		16,896.3	2,690.4	6,848.6	9,539.0																
		計	1,787.0		1,787.0	2,227.6	5,693.9	7,921.5																
	成長量	針	18,683.3		18,683.3	4,918.0	12,542.5	17,460.5																
		計	5,303.41		5,303.41	1,881.75	5,367.05	7,248.80																
宗谷	面積	針	4.15		4.15	2,745.52	8,565.96	11,311.48																
		計	5,307.56		5,307.56	4,627.27	13,933.01	18,560.28																
	材積	針	531,821		531,821	252,746	875,696	1,128,442																
		計	207,132		207,132	340,402	1,078,503	1,418,905																
	成長量	針	738,953		738,953	593,148	1,954,199	2,547,347																
		計	15,626.4		15,626.4	4,262.8	10,645.2	14,908.0																
計	面積	針	3,310.7		3,310.7	4,729.5	9,051.0	13,780.5																
		計	18,937.1		18,937.1	8,992.3	19,696.2	28,688.5																
	材積	針	531,821		531,821	252,746	875,696	1,128,442																
		計	207,132		207,132	340,402	1,078,503	1,418,905																
	成長量	針	738,953		738,953	593,148	1,954,199	2,547,347																
		計	15,626.4		15,626.4	4,262.8	10,645.2	14,908.0																
計	面積	針	3,310.7		3,310.7	4,729.5	9,051.0	13,780.5																
		計	18,937.1		18,937.1	8,992.3	19,696.2	28,688.5																
	材積	針	531,821		531,821	252,746	875,696	1,128,442																
		計	207,132		207,132	340,402	1,078,503	1,418,905																
	成長量	針	738,953		738,953	593,148	1,954,199	2,547,347																
		計	15,626.4		15,626.4	4,262.8	10,645.2	14,908.0																

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

森林計画区:009 宗谷

市町村	区分	立木地											無立木地等					計					
		人工林					天然林						伐採跡地	未立木地	改植予定地	林地以外の土地	計						
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	計														
枝幸町	面積	針	10,057.46	282.94	10,340.40	3,161.83	7,463.88	10,625.71															
		広	101.04	7.13	108.17	7,041.39	18,100.36	25,141.75															
	材積	針	10,158.50	290.07	10,448.57	10,203.22	25,564.24	35,767.46															
		広	930.430	56.104	986.534	412.170	1,261.973	1,674.143															
	成長量	針	406.341	4.447	410.788	839.560	2,539.453	3,379.013															
		広	1,336.771	60.551	1,397.322	1,251.730	3,801.426	5,053.156															
豊富町	面積	針	25,590.1	354.9	25,945.0	6,970.0	16,108.6	23,078.6															
		広	6,477.3	71.2	6,548.5	11,434.7	22,555.4	33,990.1															
	材積	針	32,067.4	426.1	32,493.5	18,404.7	38,664.0	57,068.7															
		広	5,634.03	25.76	5,659.79	714.38	2,382.25	3,096.63															
	成長量	針	5.62		5.62	1,465.91	3,567.07	5,032.98															
		広	5,639.65	25.76	5,665.41	2,180.29	5,949.32	8,129.61															
礼文町	面積	針	931,485	3,542	935,027	95,942	426,423	522,365															
		広	102,464	306	102,770	197,411	552,114	749,525															
	材積	針	1,033,949	3,848	1,037,797	293,353	978,537	1,271,890															
		広	30,867.9	21.6	30,889.5	1,735.5	5,050.9	6,786.4															
	成長量	針	1,638.3	4.8	1,643.1	2,675.3	5,649.7	8,325.0															
		広	32,506.2	26.4	32,532.6	4,410.8	10,700.6	15,111.4															
利尻町	面積	針	367.64		367.64	3.31	1,240.66	1,243.97															
		広	238.02		238.02	36.43	1,481.19	1,517.62															
	材積	針	605.66		605.66	39.74	2,721.85	2,761.59															
		広	34,181		34,181	144	217,257	217,401															
	成長量	針	14,961		14,961	1,113	129,825	130,938															
		広	49,142		49,142	1,257	347,082	348,339															
計	面積	針	989.7		989.7	4.0	2,280.5	2,284.5															
		広	169.1		169.1	18.5	1,303.9	1,322.4															
	材積	針	1,158.8		1,158.8	22.5	3,584.4	3,606.9															
		広	466.32		466.32	0.95	1,394.35	1,395.30															
	成長量	針	167.72		167.72	6.76	1,902.29	1,909.05															
		広	634.04		634.04	7.71	3,296.64	3,304.35															
計	面積	針	78,127		78,127	31	230,213	230,244															
		広	42,213		42,213	378	220,890	221,268															
	材積	針	120,340		120,340	409	451,103	451,512															
		広	2,549.1		2,549.1	0.7	2,378.2	2,378.9															
	成長量	針	464.0		464.0	6.6	2,139.7	2,146.3															
		広	3,013.1		3,013.1	7.3	4,517.9	4,525.2															

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

森林計画区:009 宗谷

市町村	区分	立木地										無立木地等					計					
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植予定地	林地以外の土地	計						
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	計													
利尻富士町	面積	針	553.91		553.91	93.23	2,452.86	2,546.09			3,100.00											
		広	110.82		110.82	69.78	1,355.44	1,425.22			1,536.04											
	計	664.73		664.73	163.01	3,808.30	3,971.31			4,636.04												
	材積	針	103.894		103.894	7,502	499,104	506,606			610,500											
		広	26,775		26,775	2,926	174,184	177,110			203,885											
	計	130,669		130,669	10,428	673,288	683,716			814,385												
成長量	針	2,971.7		2,971.7	122.2	5,240.8	5,363.0			8,334.7												
	広	353.3		353.3	40.2	1,610.1	1,650.3			2,003.6												
計	3,325.0		3,325.0	162.4	6,850.9	7,013.3			10,338.3													
幌延町	面積	針	1,264.97		1,264.97	285.08	573.26	858.34			2,123.31											
		広	13.77		13.77	2,104.01	3,300.74	5,404.75			5,418.52											
	計	1,278.74		1,278.74	2,389.09	3,874.00	6,263.09			7,541.83												
	材積	針	172,197		172,197	35,989	92,068	128,057			300,254											
		広	14,314		14,314	256,409	438,930	695,359			709,653											
	計	186,511		186,511	292,398	530,998	823,396			1,009,907												
成長量	針	4,512.6		4,512.6	595.7	1,210.6	1,806.3			6,318.9												
	広	228.8		228.8	3,493.9	5,223.5	8,717.4			8,946.2												
計	4,741.4		4,741.4	4,089.6	6,434.1	10,523.7			15,265.1													
森林計画計	面積	針																				
		広																				
	計																					
	材積	針																				
		広																				
	計																					
成長量	針																					
	広																					
計																						

(注) 1.人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。

2.竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

(4) 制限林の種類別面積

森林計画区:009 宗谷

単位:ha

	市町村							合計
	稚内市	猿払村	浜頓別町	中頓別町	枝幸町	豊富町		
保								
安								
林								
保安施設地区								
砂防指定地								
特別保護地区								
第一種特別地域								
第二種特別地域								
第三種特別地域								
地種区分未定地域								
計	(1,062.59)	(18.34)	(469.51)	22,799.43	(443.20)	(1,339.39)	12,720.90	
特別保護地区	(1.67)						280.62	
第一種特別地域	131.74					(1,339.39)		
第二種特別地域	24.92							
第三種特別地域								
地種区分未定地域								
計	(33.17)	(18.34)	(469.51)	22,799.43	(443.20)	(1,339.39)	280.62	
国定公園								
第一種特別地域								
第二種特別地域								
第三種特別地域								
地種区分未定地域								
計								
都道府県立								
第一種特別地域			(459.51)		(38.40)			
第二種特別地域			(101.75)					
第三種特別地域								
地種区分未定地域								
計			(571.26)		(38.40)			
原生自然環境保全地域								
自然環境保全地域特別地区								
鳥獣保護区特別保護地区			(40.00)	(59.82)	(48.51)			
緑地保全地区								
風致地区								
特別母樹林								
史跡名勝天然記念物	(0.36)		(87.17)		(38.40)		(1,620.01)	
種の保存法による管理地区								
その他								
合計	(1,097.79)	(18.34)	(1,167.94)	(59.82)	(568.51)	(2,959.40)	13,001.52	

(注) ( ) 書の数値は重複制限林で外数である。

区分	市町村						合計
	礼文町	利尻町	利尻富士町	幌延町	市町村	合計	
水源かん養保安林	1,463.58	5,088.07	6,427.81	7,398.56			95,521.08
土砂流出防護保安林	2,347.98		11.40				44,696.93
土砂崩壊防護保安林	181.31		68.90				621.54
飛砂防護保安林			41.86	469.62			2,811.72
防風保安林							
水害防護保安林							
潮害防護保安林						(18.34)	5,647.23
干害防護保安林	1,514.60						
防雪保安林							
防霧保安林							
なだれ防止保安林	10.36						86.32
落石防止保安林							
防火保安林							
魚つき保安林			57.84				58.98
航行目標保安林		(186.92)	359.10				14.84
保健保安林		198.09	(412.56)				(2,106.96)
風致保安林		(186.92)	(412.56)				(382.34)
計	5,517.83	5,286.16	6,966.91	7,868.18			151,670.80
保安施設地区							
砂防指定地			(10.60)				(12.27)
特別保護地区	(802.13)	(1,249.67)	0.06	(268.49)			(5,616.09)
第一種特別地域	(136.78)	(871.36)	0.10	(72.97)			(1,972.80)
第二種特別地域	(494.93)	(96.30)	3.86	(15.60)			(1,093.88)
第三種特別地域	(1,927.19)	(779.24)	23.88	(18.62)			(4,404.44)
地種区分未定地域		5.18					188.95
計	(3,361.03)	(2,996.57)	27.90	(375.68)			(13,087.21)
特別保護地区		7.00	(4,981.37)	168.47			1,133.53
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
都							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
県							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
市							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
町							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
村							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
市町村							
第一種特別地域							
第二種特別地域							
第三種特別地域							
地種区分未定地域							
計							
合計	6,010.71	5,293.16	(5,404.53)	(375.68)	8,036.65	(18,364.70)	152,868.08

(注) ( ) 書の数値は重複制限林で外数である。

## (5) 樹種別材積表

単位:m<sup>3</sup>

		人工林	天然林	無立木地	その他	計
針葉樹	カラマツ	406,045	1,607	-	-	407,652
	トドマツ	4,104,193	4,113,006	4	-	8,217,203
	エゾマツ	611,884	2,297,475	-	-	2,909,359
	他針葉樹	10,407	936	-	-	11,343
	小計	5,132,529	6,413,024	4	-	11,545,557
広葉樹	ナラ類	7,472	1,303,025	-	-	1,310,497
	カンバ類	296,718	3,553,360	45	-	3,850,123
	カエデ類	12,295	2,262	-	-	14,557
	シナノキ	8,043	961,481	-	-	969,524
	タモ類	5,189	40,007	57	-	45,253
	他広葉樹	773,646	3,373,692	177	-	4,147,515
	小計	1,103,363	9,233,827	279	-	10,337,469
合計	6,235,892	15,646,851	283	-	21,883,026	

## (6) 荒廃地等の面積

単位:ha

市町村名	荒廃地
稚内市	11.61
猿払村	64.28
浜頓別町	0.23
中頓別町	16.39
枝幸町	30.59
豊富町	43.19
礼文町	-
利尻町	-
利尻富士町	5.35
幌延町	3.63
計	175.27

## (7) 森林の被害

単位:ha

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
総数	1	1	-

注) 北海道森林管理局事業統計書による。



### 3 林業の動向

#### (1) 森林組合及び生産森林組合の現況

##### ア 構成

振興局	組合名	市町村 (地区)	組合員数 (人)	組合員所有 森林面積 (ha)
宗谷総合振興局	稚内市森林組合	稚内市	1,202	69,580
		礼文町		
		利尻町		
		利尻富士町		
	豊富猿払森林組合	豊富町		
		猿払村		
	中頓別・浜頓別町 森林組合	浜頓別町		
		中頓別町		
	南宗谷森林組合	枝幸町		
	留萌北部森林組合	幌延町 (天塩町)		

注1) 市町村(地区)は、組合定款に規定する市町村の区域。

注2) 森林組合現況調査一覧(令和元年度)による。

## (2) 林業事業体等の現況

単位:事業体数、工場数

市町村	造林業	素材 生産業	木材・木製品製造業						
			製材	チップ	合単板	フローリング	集成材	プレカット	計
総数	(12) 16	(6) 8		(2) 3					(2) 4
稚内市	(5) 6	(2) 2		(1) 1	—	—	—	1	(1) 2
猿払村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
浜頓別町	(1) 1	(1) 1	—	—	—	—	—	—	—
中頓別町	(1) 2	(1) 2	1	(1) 1	—	—	—	—	(1) 1
枝幸町	(3) 4	(2) 3	—	1	—	—	—	—	1
豊富町	(0) 1	—	—	—	—	—	—	—	—
礼文町	(1) 1	—	—	—	—	—	—	—	—
利尻町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
利尻富士町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
幌延町	(1) 1	—	—	—	—	—	—	—	—

注1) 北海道水産林務部林務局林業木材課調べ(令和元年度実績)による。

注2) 造林業及び素材生産業上段の( )は、森林組合を除いた事業体数の内数。

注3) チップ上段の( )は、製材工場との兼業で内数。

## (3) 林業労働力の概況

単位:人

	総就労者	林業 就労者
S50年	55,150	1,168
S55年	54,279	1,008
S60年	51,909	875
H 2年	48,648	635
H 7年	47,740	458
H12年	44,485	266
H17年	40,360	211
H22年	37,109	242
H27年	34,429	236

注) 平成27年国勢調査報告による。

## (4) 林業機械化の概況

単位 台数:台

機 械 種 名		台数	説 明
索 道	重 量 式	-	素材の自重を利用して移送するもの
	動 力 式	-	動力を持って移送するもの
集 材 機	小 型	-	10PS未満のもの
	大 型	-	10PS以上のもの
モノケール		-	ジグザグ集材施設
リモコンウインチ		2	遠隔操作による小型可搬式木寄せ機
自走式搬機		-	架線上を走行し素材の巻き上げ及び移送を行う搬機
モノレール		-	跨座式及び懸垂式
小型運材車		-	20PS未満のもの
		3	20PS以上のもの
ホイールタイプトラクタ		1	素材等を牽引して集材等の作業に用いる(車輪式のもの)
クローラタイプトラクタ		15	ホイールトラクタと同じ作業に用いる(履带式のもの)
育林用トラクタ		4	主として地拵え等の育林作業に用いる
フォークリフト		1	素材を所定の高さへ積み込み、巻立等の作業を行う
フォークローダ		2	土場等で素材の積み込み、巻立等の作業を行う
クレーン	運材機能なし	5	素材等の吊り上げ、積み込み、巻立等の作業のみを行うもの (トラッククレーン、ホイールクレーン、クローラクレーン)
	運材機能あり	4	クレーン作業と木材運搬を行うもの (クレーン付きトラック)
グラップル	運材機能なし	24	クレーンの先端部に材をつかむグラップルを装備 (グラップルローダ作業車)
	運材機能あり	1	グラップルローダによる作業と木材の運搬を行うもの (グラップルローダ付きトラック)
トラクタショベル		18	木材の搬出、育林作業等に係る土木用のもの
ショベル系掘削機械		45	木材の搬出、育林作業等に係る土木用のもの (バックホウ、パワーショベル等)
チェーンソー		165	伐倒、枝払い、造材作業、育林作業等に用いる
チェーンソーリモコン装置付		-	リモコンチェーンソー架台
刈 払 機		198	地拵え、下刈等に用いるもの(携帯式のもの)
植 穴 掘 機		7	苗木を林地に植栽するのに用いるもの
動力枝打機	自動木登り式	1	自動木登り式のもの
	背負い式等	-	背負い式等の上記以外のもの
苗畑用トラクタ		3	苗畑において、耕うん、整地等に用いる
フェラーバンチャ		2	立木を伐倒、集積する自走式機械
スキ ッ ダ		-	牽引式集材専用のトラクタ
プロセ ッ タ		2	枝払い、玉切りする自走式機械
ハーベスタ		15	伐倒、枝払い、玉切りする自走式機械
フォワーダ		5	積載式集材専用車両
タワーヤーダ		-	元柱を具備した自走式集材機械
グラップルソー		3	巻立、玉切りする自走式機械
樹木粉碎機		2	伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械

注) 北海道水産林務部林務局林業木材課調べ(令和2年3月31日現在)による。

#### 4 前期計画の実行状況

##### (1) 間伐立木材積その他の伐採立木材積

単位 材積:千m<sup>3</sup>

区 分	伐採立木材積								
	計 画			実 行			実行歩合		
	主伐	間伐	総数	主伐	間伐	総数	主伐	間伐	総数
総 数	87	207	294	106	209	315	122%	101%	107%
針葉樹	72	178	250	91	183	273	126%	103%	109%
広葉樹	14	29	43	15	27	42	107%	93%	98%

注1) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

2) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

##### (2) 間伐面積

単位 面積:ha

計 画	実 行	実行歩合
4,079	3,976	97%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

##### (3) 人工造林・天然更新別面積

単位 面積:ha

総 数			人工造林			天然更新		
計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
922	608	66%	318	471	148%	604	137	23%

注1) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

2) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

##### (4) 林道の開設及び拡張の数量

単位 延長:km

区 分	開 設 延 長			拡 張 箇 所 数		
	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
基幹路網	38	8	21%	16	0箇所	0%
うち林業専用道	-	8	-	-	-	-

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

(5) 保安林の整備及び治山事業に関する計画

ア 保安林の種類別の面積

単位 面積:ha

種 類	指 定			解 除		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
総 数	-	-	-	-	1	-
水 源 かん 養	-	-	-	-	0	-
土 砂 流 出 防 備	-	-	-	-	0	-
保 健	-	-	-	-	0	-

注1) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

2) 総数は四捨五入のため必ずしも一致しない。

イ 保安施設地区の面積

該当なし

ウ 治山事業の数量

主な工種	計画	実行	実行歩合
溪 間 工 (箇所)	43	8	19%
山 腹 工 (箇所)	22	9	41%
植 栽 工 (ha)	87	14	16%
本数調整伐 (ha)	379	164	43%

注) 計画及び実行の数値は、前計画の前期分(H28～R2年度)である。

5 林地の異動状況(森林計画対象森林)

(1) 森林より森林以外への異動

単位 面積:ha

農 用 地	ゴルフ場等 レジャー施設 用 地	住宅、別荘、 工場等建物 敷地及び その附帯地	採石採土地	そ の 他	合 計
-	-	-	-	24	24

注) その他の主な内訳は道路用地への売り払いや、電気事業用地、林道等附帯地への異動である。

(2) 森林以外より森林への異動

単位 面積:ha

原 野	農 用 地	そ の 他	合 計
-	-	4	4

注) その他の主な内訳は返地による林地・雑地への異動である。

6 森林資源の推移

(1) 分期別伐採立木材積等

単位 面積:ha、材積:1,000m<sup>3</sup>、延長:km

分 期		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
伐採立木材積	総 数	総 数	356	339	374	449	477	417	416	368
		針葉樹	291	269	299	363	380	337	340	301
		広葉樹	65	70	75	86	97	80	76	68
	主 伐	総 数	96	82	109	118	110	107	119	82
		針葉樹	78	65	88	96	88	86	97	66
		広葉樹	18	17	21	23	22	21	22	16
	間 伐	総 数	259	257	265	331	367	311	297	286
		針葉樹	212	203	211	268	292	251	243	234
		広葉樹	47	54	54	63	75	60	54	52
造林面積	総 数	424	490	657	623	520	568	609	304	
	人工造林	353	356	480	400	270	349	436	177	
	天然更新	71	133	178	222	250	219	172	127	

注) 計は四捨五入のため必ずしも一致しない。

(2) 分期別期首資源表

單位 面積:ha、材積:千m<sup>3</sup>

區	分	面										材積		
		總數	1·2 齡級	3·4 齡級	5·6 齡級	7·8 齡級	9·10 齡級	11·12 齡級	13·14 齡級	15·16 齡級	17·18 齡級		19·20 齡級	21齡級 以上
第 I 分期	總數	155,432	300	663	776	9,183	12,242	13,871	6,932	2,044	6,017	10,092	93,312	21,883
	總數	41,090	289	642	761	8,873	11,530	12,721	4,953	584	470	267	0	6,236
	育成單層林	40,615	129	619	761	8,873	11,530	12,720	4,918	524	347	194		6,142
天然林	育成複層林	474	160	23			1		35	60	73		94	
	總數	114,343	11	22	15	309	712	1,150	1,979	1,460	5,547	9,826	15,647	
	育成單層林	0												
天然林	育成複層林	28,515	11	22	15	309	712	968	1,873	924	4,387	15,526	3,512	
	總數	85,828	1				182	107	536	1,779	5,439	77,786	12,135	
	天然生林													

區	分	面										材積		
		總數	1·2 齡級	3·4 齡級	5·6 齡級	7·8 齡級	9·10 齡級	11·12 齡級	13·14 齡級	15·16 齡級	17·18 齡級		19·20 齡級	21齡級 以上
第 II 分期	總數	155,432	693	425	681	3,690	11,884	12,610	11,975	2,701	2,714	7,268	100,791	22,823
	總數	40,606	685	401	679	3,471	11,456	11,472	10,262	1,073	676	428	3	6,862
	育成單層林	39,697	103	374	667	3,471	11,456	11,472	10,258	1,043	568	285		6,734
天然林	育成複層林	909	582	27	12				4	30	108	143	3	128
	總數	114,826	8	24	2	220	428	1,138	1,713	1,627	2,038	6,841	100,789	15,961
	育成單層林	0												
天然林	育成複層林	28,998	8	24	2	220	428	1,091	1,503	1,492	1,254	4,670	18,307	3,719
	總數	85,828	1				47	209	136	784	2,171	82,481	12,241	
	天然生林													

區	分	面										材積		
		總數	1·2 齡級	3·4 齡級	5·6 齡級	7·8 齡級	9·10 齡級	11·12 齡級	13·14 齡級	15·16 齡級	17·18 齡級		19·20 齡級	21齡級 以上
第 III 分期	總數	155,432	870	300	663	776	9,287	12,270	13,484	6,526	2,041	5,852	103,363	23,637
	總數	40,085	870	289	642	756	8,697	11,301	12,071	4,385	558	297	220	7,391
	育成單層林	38,869	76	129	619	756	8,697	11,301	12,070	4,360	499	213	149	7,269
天然林	育成複層林	1,216	793	160	23				1	24	59	84	72	122
	總數	115,348	0	11	22	19	591	969	1,413	2,141	1,483	5,555	103,142	16,246
	育成單層林	0												
天然林	育成複層林	29,548						969	1,259	2,035	947	3,776	19,918	3,902
	總數	85,800		1	22	19	591	969	154	107	536	1,779	83,224	12,344
	天然生林													

単位 面積:ha,材積:千m<sup>3</sup>

区分	面積											材積	
	総数	面											
		1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級		21齡級 以上
第IV分期	155,432	836	693	425	681	3,836	12,038	12,471	11,270	2,517	2,686	107,981	24,298
総数	39,524	836	685	401	676	3,401	11,228	11,094	9,355	870	634	344	7,775
人工林	37,862	5	103	374	664	3,401	11,228	11,094	9,352	851	552	238	7,658
育成単層林	1,662	831	582	27	12	12			3	19	82	106	117
育成複層林	115,908	0	8	24	5	435	810	1,377	1,915	1,647	2,051	107,637	16,523
総数	30,108	8	8	24	5	435	810	1,358	1,705	1,511	1,268	22,985	4,085
天然林	85,800		1					19	209	136	784	84,652	12,438
天然生林													

区分	面積											材積	
	総数	面											
		1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級		21齡級 以上
第V分期	155,432	880	870	300	663	923	9,491	12,168	13,022	5,999	1,930	109,186	24,800
総数	38,926	880	870	289	638	741	8,524	10,925	11,371	3,774	436	478	7,993
人工林	36,896	4	76	129	615	741	8,524	10,925	11,370	3,754	408	349	7,865
育成単層林	2,030	875	793	160	22	22			0	21	29	129	127
育成複層林	116,507	0	0	11	25	182	967	1,243	1,652	2,224	1,494	108,707	16,808
総数	30,706				25	182	967	1,243	1,497	2,118	958	23,704	4,277
天然林	85,800			1					154	107	536	85,003	12,531
天然生林													

区分	面積											材積	
	総数	面											
		1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級		21齡級 以上
第VI分期	155,432	671	836	693	425	840	4,023	12,001	11,992	10,887	2,510	110,556	25,235
総数	38,307	671	836	685	398	663	3,334	10,842	10,396	8,789	845	849	8,140
人工林	36,012	4	5	103	372	651	3,334	10,842	10,396	8,786	827	693	7,965
育成単層林	2,295	667	831	582	27	12				2	18	156	174
育成複層林	117,125	0	0	8	27	178	689	1,159	1,596	2,098	1,664	109,707	17,095
総数	31,325			8	27	178	689	1,159	1,578	1,889	1,529	24,271	4,474
天然林	85,800			1					19	209	136	85,436	12,621
天然生林													



単位 面積:ha,材積:千m<sup>3</sup>

区	分	面積											材積
		総数	面										
			1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級	
第Ⅷ分期	総数	155,432	880	870	300	793	1,117	9,498	11,751	12,636	5,858	111,109	25,623
	育成単層林	37,727	880	870	288	625	726	8,218	10,292	10,761	3,559	889	8,239
	育成複層林	35,099	8	76	128	603	726	8,218	10,292	10,760	3,548	735	8,019
	総数	2,628	611	793	160	22				0	11	154	220
天然林	育成単層林	117,705	0	0	13	168	391	1,280	1,459	1,875	2,300	110,220	17,384
	育成複層林	31,905			12	168	391	1,280	1,459	1,721	2,193	24,681	4,672
	天然生林	85,800			1					154	107	85,539	12,712
	総数												

区	分	面積											材積
		総数	面										
			1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級	
第Ⅷ分期	総数	155,432	671	836	693	477	1,046	4,099	11,753	11,630	10,517	112,926	25,955
	育成単層林	37,201	671	836	683	390	649	3,210	10,380	9,830	8,245	1,522	8,285
	育成複層林	34,148	12	5	102	364	638	3,210	10,380	9,830	8,243	1,361	7,996
	総数	3,053	774	831	580	26	12				1	162	289
天然林	育成単層林	118,231	0	0	10	86	396	889	1,373	1,800	2,273	111,404	17,669
	育成複層林	32,431			9	86	396	889	1,373	1,782	2,064	25,832	4,866
	天然生林	85,800			1					19	209	85,572	12,803
	総数												

区	分	面積											材積
		総数	面										
			1・2 齡級	3・4 齡級	5・6 齡級	7・8 齡級	9・10 齡級	11・12 齡級	13・14 齡級	15・16 齡級	17・18 齡級	19・20 齡級	
第Ⅷ分期	総数	155,432	619	880	870	307	943	1,251	9,347	11,534	12,488	116,604	26,266
	育成単層林	36,725	589	880	865	282	613	702	7,904	9,872	10,399	3,999	8,318
	育成複層林	33,529	9	4	76	125	591	702	7,904	9,872	10,399	3,838	7,956
	総数	3,195	580	611	789	157	22				0	161	362
天然林	育成単層林	118,708	0	0	5	25	330	549	1,443	1,662	2,089	112,604	17,948
	育成複層林	32,908			5	24	330	549	1,443	1,662	1,935	26,959	5,053
	天然生林	85,800				1					154	85,645	12,895
	総数												